

# 研究者総覧 2013



新潟国際情報大学  
Niigata University of International and Information Studies

# 研究者総覧 2013



# 新潟国際情報大学の「研究者総覧」(2013) について

本学は、平成6年に「国際化、情報化が進展する現代社会に貢献する人材の育成」を目的に設立されました。従いまして本年20周年を迎えることになりました。この間、地元地域を中心に多くの卒業生を輩出し、着実に建学の目的に向かって歩んで参りました。

本学では、この目的を果たすため情報文化学部情報文化学科と情報システム学科の2学科を設置しています。専門分野は異なりますが両学科とも、少人数による実践的教育、語学教育の徹底、人間性豊かな人材育成などの共通の理念の下、教育に取り組んでいます。

さらにこうした教育理念を実現するため、本学ではそれに相応しい教員とそれをサポートする職員が集まって、力を合わせて教育と研究と地域貢献に専念しています。教員をみますと情報文化学科には米国、中国、韓国、ロシア等外国出身の教員が多く、それぞれの言語教育にたずさわっていますし、情報システム学科には企業出身者が多く、実際の社会で役立つシステム教育に取り組んでいるのが特徴です。総合大学ではない本学が、逆にその特性を生かして国際化と情報化をキーワードとする研究テーマに絞って、ユニークかつ実践的教育・研究を行っています。

また、こうした専門教育等を地域への貢献に役立てようと、新潟市内の中心部にあります新潟中央キャンパスに「エクステンションセンター」を設置し、幅広い市民の皆様方に生涯学習講座を開設・提供しますとともに、教員（私も含め）が講師の一部を務めています。

この「研究者総覧」はこうした本学の教員の研究内容等を多くの方々に知って頂き、その知的財産としての知識や研究成果が広く地域で活用されますことを願ってまとめたものです。この総覧により本学の教職員、学生にとどまらず他大学、高等学校関係者や大学を目指す高校生、企業、行政関係者など多くの方々から本学の教員を知って頂き、地域で多面的にご活用頂きたいと願っております。


皆様に総覧をお送りし、本学の教育研究者をご紹介申しますと共に、この総覧がこうした初期の目的を十分に果たさんことを切に願っております。

2013年4月

新潟国際情報大学 学長 平山 征夫



# 凡 例

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  |                               |
|  | 氏 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○     |
|   | 性 別 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○     |
|   | 生 年 月 日 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | 職 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○     |
|   | 連 絡 方 法 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | 学 位 歴 史 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | 職 歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○     |
|   | 受 賞 歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○   |
|   | 研 究 分 野 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | 主 要 業 績 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | 所 属 学 会 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|   | そ の 他 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○   |

## 収録内容

平成 25 年 4 月 1 日現在で本学に在職する専任の教員（教授、准教授、講師）を収録し、記載事項については、平成 25 年 4 月 1 日現在のものでした。

## 掲載順

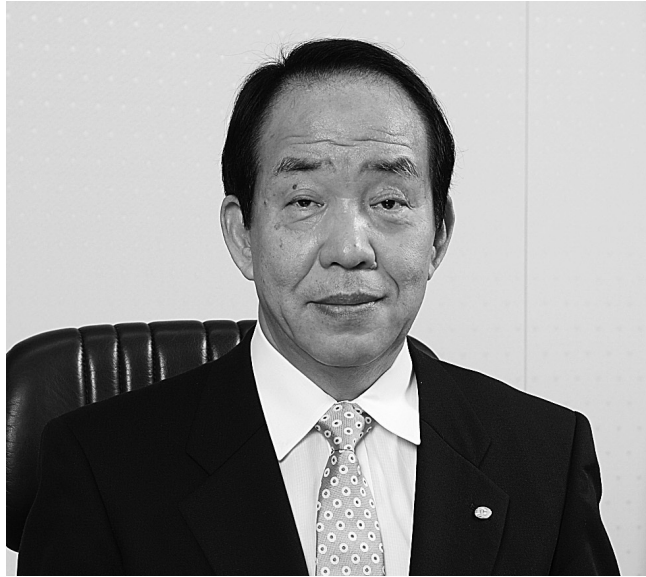
学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し、その所属ごとに教授、准教授、講師の順とした。

## 掲載事項

- 氏 名 フリガナ ローマ字を付記。
- 性 別 男・女の別を記載。
- 生 年 月 日 西暦で記載。
- 職 名 現在の職名及び（ ）書きで就任年月を記載。
- 連 絡 方 法 Eメール（電子メール）アドレスを記載。
- 学 歴 大学等及び大学院を記載。なお、大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。
- 学 位 学位名、授与大学名、取得年月を記載。
- 職 歴 職名、在職期間を併記。（間近の経歴を含む。）
- 受 賞 歴 主要な学術に関する受賞状況について、賞の名称、受賞年月を記載。
- 研 究 分 野 現在の研究テーマについて記載。
- 主 要 業 績 過去に発行した著書・学術論文のうちから主なものをその題名、発行年月、誌名・発行所を記載。
- 所 属 学 会 主なものを記載。
- そ の 他 所属する委員会や研究会等、特記すべき事項を記載。

## 目 次

|               |    |
|---------------|----|
| 学長            | 6  |
| 情報文化学科        | 9  |
| 臼井 陽一郎        | 11 |
| 區 建英          | 12 |
| 小澤 治子         | 13 |
| 越智 敏夫         | 14 |
| 小山田 紀子        | 15 |
| 小林 元裕         | 16 |
| 佐々木 寛         | 17 |
| 澤口 晋一         | 18 |
| 申 銀珠          | 19 |
| 高橋 正樹         | 20 |
| グレゴリー ハドリー    | 21 |
| アレクサンドル プラーソル | 22 |
| 矢口 裕子         | 23 |
| 吉澤 文寿         | 24 |
| 安藤 潤          | 25 |
| 神長 英輔         | 26 |
| 熊谷 卓          | 27 |
| 松尾 瑞穂         | 28 |
| ポール ディキンソン    | 29 |
| マイケル ルディック    | 30 |
| 情報システム学科      | 31 |
| 内田 亨          | 33 |
| 上西園 武良        | 34 |
| 岸野 清孝         | 35 |
| 桑原 悟          | 36 |
| 小林 満男         | 37 |
| 近藤 進          | 38 |
| 白井 健二         | 39 |
| 高木 義和         | 40 |
| 高橋 正平         | 41 |
| 谷本 和明         | 42 |
| 槻木 公一         | 43 |
| 西山 茂          | 44 |
| 藤瀬 武彦         | 45 |
| 藤田 晴啓         | 46 |
| 石井 忠夫         | 47 |
| 石川 洋          | 48 |
| 小宮山 智志        | 49 |
| 佐々木 桐子        | 50 |
| 近山 英輔         | 51 |
| 山下 功          | 52 |
| 伊村 知子         | 53 |
| 河原 和好         | 54 |
| 中田 豊久         | 55 |



## 学 長

|         |                                |               |
|---------|--------------------------------|---------------|
| 氏 名     | ヒラヤマ イクオ<br>平山 征夫              | HIRAYAMA Ikuo |
| 性 別     | 男                              |               |
| 生 年 月 日 | 1944年7月21日生                    |               |
| 職 名     | 学長 (2008年4月)                   |               |
| 連 絡 方 法 | E-mail : hirayama@nuis.ac.jp   |               |
| 学 歴     | 1967年 横浜国立大学経済学部経済学科卒業         |               |
| 職 歴     | 1967年 4月 日本銀行入行                |               |
|         | 1985年11月 // 総務局広報課長            |               |
|         | 1987年 7月 // 電算情報局総務課長          |               |
|         | 1988年 5月 // 新潟支店長              |               |
|         | 1992年 5月 // 仙台支店長              |               |
|         | 1992年10月 新潟県知事就任               |               |
|         | 1996年10月 // 再任                 |               |
|         | 2000年10月 // 三選                 |               |
|         | 2004年10月 // 退任                 |               |
|         | 2005年 4月 国立大学法人・長岡技術科学大学特任教授就任 |               |
|         | 2008年 3月 // 退任                 |               |
|         | 2008年 4月 新潟国際情報大学学長就任          |               |

|             |  |
|-------------|--|
| <b>研究分野</b> | 実践から見た地域経営・地域政策 地方自治の課題とあり方<br>企業の社会的役割など実践的企業論 組織の安全管理の課題<br>地域経済としての産業・地域金融<br>原子力発電等エネルギー立地論 地球環境と共生問題<br>東アジア（特に北東アジア経済圏問題）経済論 資本主義論<br>- これらテーマについて、行政の首長経験を踏まえた実践的な有効な政策立案<br>を目指した研究を志向 |
| <b>主要業績</b> | <b>著書</b><br>①「私はこんな知事になりたかった」（朝日新聞出版社）<br>②「平成大合併 新潟県の軌跡」（共著）（社・新潟県自治研修センター 新<br>潟日報事業社）など  |
| <b>その他</b>  | ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所名誉博士  |



# 情報 文化学科

---

臼井 陽一郎

區 建英

小澤 治子

越智 敏夫

小山田 紀子

小林 元裕

佐々木 寛

澤口 晋一

申 銀珠

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

アレクサンドル プラーソル

矢口 裕子

吉澤 文寿

安藤 潤

神長 英輔

熊谷 卓

松尾 瑞穂

ポール ディキンソン

マイケル ルディック









氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴  
  
学位  
職歴  
研究分野  
主要業績

ウスイ ヨウイチロウ

臼井 陽一郎 USUI Yoichiro

男

1965年8月10日生

教授 (2005年4月)

E-mail : usui@nuis.ac.jp

1989年 早稲田大学社会科学部卒業

1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

修士 (早稲田大学経済学研究科)、MA by research (リーズ大学法学部)

1994 ~ 1996年 早稲田大学社会科学部助手

EU政治、EU環境政策。

#### 著書

- ① (単著) 『環境のEU・規範の政治』 ナカニシヤ出版、2013年。
- ② (共著) 『紛争と和解の政治学』 (松尾秀哉・臼井陽一郎編著) ナカニシヤ出版、2013年。
- ③ (共著) 『EUの規制力』 (遠藤乾・鈴木一人編著) 日本経済評論社、2012年。
- ④ (共著) 『EU環境法』 (庄司克宏編著) 慶應義塾大学出版会、2009年。
- ⑤ (共著) *East Asian Regionalism from a Legal Perspective: Current Features and a Vision for the Future*. Ed. by Tamio Nakamura. London: Routledge, 2009.
- ⑥ (共著) 『東アジア共同体憲章案:実現可能な未来をひらく論議のために』 (中村民雄編著) 昭和堂、2008年。
- ⑦ (共著) 『国際機構』 (庄司克宏編著) 岩波書店、2006年。
- ⑧ (共著) 『EU研究の新地平:前例なき政体への接近』 (中村民雄編著) ミネルヴァ書房、2005年。
- ⑨ (共著) 『アクセス地域研究Ⅱ:先進デモクラシーの再構築』 (小川有美・岩崎正洋編著) 日本経済評論社、2004年。
- ⑩ (共著) 『甦るコミュニティ:哲学と社会科学の対話』 (田村正勝編著) 文眞堂、2003年。
- ⑪ (共著) 『世界システムのゆらぎの構造:EU・東アジア・世界経済』 (田村正勝編著) 早稲田大学出版部、1998年。

#### 論文

- ① 「EUの持続性戦略と欧州統合の行方」 『日本EU学会年報』 第29号、2009年。
- ② 'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy : A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration*. Vol.29:5, pp.619-633, December 2007.
- ③ 'An Evolving Path of Regionalism : The Construction of an Environmental Acquis in the EEC and ASEAN.' In T.Nakamura ed., *The Dynamics of East Asia Regionalism Comparative Perspective*. ISS Research Series No.24, 2007, pp.31-66.
- ④ 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics.' 『日本EU学会年報』 第26号、2006年。
- ⑤ 'Evolving Environmental Norms in the European Union.' *European Law Journal*.Vol.9:1, 2003.
- ⑥ 「EUの特異性と規範の進化」 『社会科学研究』 (東京大学社会科学研究所) 第54巻・第1号、2003年。
- ⑦ 'Norm Evolution in EC Environmental Law.' *Constitutionalism Web Papers (ConWEB)*. No.1 / 2002.

所属学会

UACES (英国EU学会)、EUSA (米国EU学会)、日本EU学会、国際政治学会



|         |   |
|---------|---|
| 氏 名     | オウ ケンエイ<br>区 建英 OU Jianying   |
| 性 別     | 女   |
| 生 年 月 日 | 1955年10月27日生  |
| 職 名     | 教授 (1998年4月)  |
| 連 絡 方 法 | E-mail : ou@nuis.ac.jp  |
| 学 歴     | 1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業<br>1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業 (文学修士)<br>1993年 東京大学大学院博士課程修了  |
| 学 位     | 博士 (学術、東京大学、1993年3月)  |
| 職 歴     | 1984 ~ 1993年 (中国) 暨南大学歴史学部専任講師<br>1988 ~ 1995年 学習院大学文学部兼任講師<br>1993 ~ 1994年 東京大学教養学部客員研究員<br>1994 ~ 1997年 新潟国際情報大学助教授   |
| 研 究 分 野 | 中国の民主化と多民族社会。中国は発展している新興国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は厳復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバル化における中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。  |
| 主 要 業 績 | <p><b>著書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①『福沢諭吉と日本近代化』原著者・丸山真男 (編集・翻訳) (学林出版社、1992年)</li> <li>②『近代日本と東アジア』(共著) (筑摩書房、1995年)</li> <li>③『日本立憲政治の形成と変質』(共著) (吉川弘文館、2005年)</li> <li>④『日本の思想』原著者・丸山真男 (共訳) (生活・読書・新知 三聯書店、2009年)</li> <li>⑤『自由と国民 厳復の模索』(東京大学出版会、2009年)</li> <li>⑥『東アジアのナショナリズムと近代』(共著) (大阪大学出版会、2011年)</li> </ul> <p><b>論文</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「中国における福沢諭吉理解」(日本歴史学会編 日本歴史、1992年2月号)</li> <li>②「福沢諭吉研究と丸山真男」(みすず書房 みすず、1992年10月号)</li> <li>③「励みと悲しみ——近代中国と日本」(岩波書店 世界、1995年3月号)</li> <li>④「丸山真男における国民国家と永久革命」(歴史学研究会編 歴史学研究、1998年3月号)</li> <li>⑤「厳復とモンテスキュー：『仁政』の転回と政治的自由」(専修大学歴史学センター年報『フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号、2007年)</li> <li>⑥「清末の『種族』論とナショナル・アイデンティティ」(『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号、2007年)</li> <li>⑦「清末中国の国粋派と明治日本の国粋主義」(ソウル大学校奎章閣国学研究院『韓国文化』41巻、2008年6月号)</li> <li>⑧「中国のナショナリズム形成 — 日清戦争後の移り変わりとは辛亥革命 —」(『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第12号、2009年)</li> <li>⑨「丸山真男と私の中国研究」(東京大学出版会『UP』、2011年4月号)</li> </ul> |
| 所 属 学 会 | 中国社会科学学会・アジア政経学会・政治思想学会<br>中国・中国日本史学会 (理事)<br>アメリカ・American Political Science Association   |
| そ の 他   | 1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。   |



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | オザワ ハルコ<br>小澤 治子 OZAWA Haruko   |
| 性別   | 女   |
| 生年月日 | 1956年4月27日生   |
| 職名   | 教授(1999年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail: haruko@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業<br>1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学  |
| 学位   | 博士(法学)(慶應義塾大学、2000年3月)  |
| 職歴   | 日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員<br>1995年 新潟国際情報大学助教授  |
| 研究分野 | 主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。   |
| 主要業績 | <p><b>著書</b></p> <p>①『ロシアの対外政策とアジア太平洋—脱イデオロギーの検証』(単著)(有信堂、2000年)</p> <p>②『日本の岐路と松岡外交—1940～41年—』(共著)(南窓社、1993年)</p> <p>③『アジアの中の日本と中国—友好と摩擦の現代史』(共著)(山川出版社、1995年)</p> <p>④『東アジアのロシア』(共著)(慶應義塾大学出版会、2004年)</p> <p><b>論文</b></p> <p>①「ソビエト政権初期の対日政策(1917.11～1921.8)—対米政策との関連で」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月)</p> <p>②「ゴルバチョフ政権と日米関係—安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」(ソ連研究第11号、1990年10月)</p> <p>③「ソ連における日本軍国主義観—ブレジネフからゴルバチョフへ—」(外交時報第1276号、1991年3月)</p> <p>④「真珠湾とソ連外交—1941年日本をめぐる米ソ関係」(軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月)</p> <p>⑤「ワシントン会議とソビエト外交—極東共和国の役割を中心に」(政治経済史学第307号、1992年1月)</p> <p>⑥「アメリカ国務省の対ソ認識(1917.11～1918.7)—駐ロシア大使フランスの役割を中心に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月)</p> <p>⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋—ロシアの対外政策路線の一考察」(外交時報第1302号、1993年10月)</p> <p>⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」(ロシア研究第18号、1994年4月)</p> <p>⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策—中東欧の位置づけを軸に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第67巻第12号、1994年12月)</p> <p>⑩「NATO拡大問題とCIS—ロシアの対外政策における位置づけ—」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月)</p> <p>⑪「ロシアの対外政策における中国—戦略的パートナーシップの限界—」(新防衛論集第25巻第4号、1998年3月)</p> <p>⑫「APEC加盟問題とロシア—アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」(海外事情第46巻第9号、1998年9月)</p> <p>⑬「NATOの東方拡大とロシア—ロシアにおける国家安全保障観との関連で—」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号、2001年3月)</p> <p>⑭「ロシアの外交戦略と米国のユニラテラリズム—イラク戦争をめぐる米ロ関係を中心に—」(ロシア・東欧研究第33号、2005年9月)</p> |
| 所属学会 | ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会  |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | オチ トシオ<br>越智 敏夫 OCHI Toshio  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1961年7月7日生   |
| 職名   | 教授 (2006年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : tochi@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1986年 立教大学法学部卒業<br>1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学   |
| 学位   | 法学修士 (慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月)   |
| 職歴   | 1992 ~ 1994年 立教大学法学部助手<br>1994 ~ 1996年 シカゴ大学客員研究員<br>1996年 新潟国際情報大学専任講師<br>2002 ~ 2003年 ニューヨーク大学招聘研究員  |
| 研究分野 | 現代政治理論、アメリカ政治論。<br>現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心にした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>①『現場としての政治学』(共著、日本経済評論社、2007年)<br>②『東アジア〈共生〉の条件』(共著、世織書房、2006年)<br>③『現代市民政治論』(共著、世織書房、2003年)<br>④『講座政治学 第一巻・政治理論』(共著、三嶺書房、1999年)<br>⑤『グローバル・デモクラシーの政治空間』(共著、東信堂、1997年)<br><b>論文</b><br>①「ナショナリズムと自己批判性」(立教法学、86号、2012年)<br>②「強制される忠誠：フィランソロピーとリベラル・ナショナリスト」(年報政治学2011-I 政治における忠誠と倫理の理念化、2011年)<br>③「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」(政治思想研究、第7号、2007年)<br>④「市民文化論の統合的機能：アメリカ社会の『自己正当化』について」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第9号、2006年)<br>⑤“Erasing Memories, Preserving Memories: Political Meanings of Pollution and Antipollution Movements in Cold War Japan,” <i>Journal of Pacific Asia</i> , vol.12, 2005. |
| 所属学会 | 日本政治学会<br>日本アメリカ学会<br>American Political Science Association<br>政治思想学会   |





|      |  |
|------|--|
| 氏名   | オヤマダ ノリコ<br>小山田 紀子 OYAMADA Noriko  |
| 性別   | 女  |
| 生年月日 | 1953年11月27日生   |
| 職名   | 教授（2005年4月）  |
| 連絡方法 | E-mail : oyamada@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業<br>1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学  |
| 学位   | 国際学修士（津田塾大学、1981年）   |
| 職歴   | 1987～1989年 日本学術振興会特別研究員<br>1987～1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師<br>1992～2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授（1995年～）   |
| 研究分野 | マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ（狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国）の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。   |
| 主要業績 | <p><b>著書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① バンジャマン・ストラ著『アルジェリアの歴史 — フランス植民地支配・独立戦争・脱植民地化』（共訳）（明石書店、2011年）</li> <li>② 『アルジェリアを知るための62章』（共著）（明石書店、2009年）</li> <li>③ 『イスラーム事典』（共著）（岩波書店、2002年）</li> <li>④ 『マグレブへの招待 — 北アフリカの社会と文化』（共著）（大学図書出版、2008年3月）</li> </ul> <p><b>論文</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月</li> <li>② 「独立戦争前夜のアルジェリアにおける農業構造 — 1950・51年農業セサス分析に基づく試論 —」『国際関係学研究』No.12別冊、1986年3月</li> <li>③ 「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月</li> <li>④ 「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機” — トルコ政権崩壊の過程に関する — 考察 —」『歴史学研究』第692号、1996年12月</li> <li>⑤ 「アルジェリアにおける1863年元老院決議（土地法）の適用と農村社会の再編 — 植民地行政町村の形成をめぐる —」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月</li> <li>⑥ 「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯（覚書） — フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像 —」『人間と社会 — 知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月</li> <li>⑦ 「『アルジェリア社会主義農業の構造改革』再考 — 1980年代のティアレット県トゥニエ・テル・ハアド郡における生産組織の再編成をめぐる —」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第14号、2004年3月</li> <li>⑧ 「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月</li> <li>⑨ 「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動 住民再編成の政策をめぐる —」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月</li> <li>⑩ 「アルジェリア『内戦』の傷跡 — 2005年春の旅から —」津田塾大学『国際関係研究所報』第41号、2006年12月</li> <li>⑪ 「Mediterranean Powers and the ‘Algerian Crisis’ at the Beginning of the 19th Century」『上智アジア学』第24号、2006年12月</li> <li>⑫ 「人の移動からみるフランス・アンジェリア関係史—脱植民地化と『引揚者』を中心に—」『歴史学研究』No846、2008年10月</li> <li>⑬ 「アルジェリア近現代史研究への視点」津田塾大学『国際関係研究所報』第46号、2011年12月</li> </ul> |
| 所属学会 | 日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会  |





氏名 小林 元裕  
性別 男  
生年月日 1963年生  
職名 教授 (2011年4月)  
連絡方法 E-mail : Kobayashi@nuis.ac.jp  
学歴 1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業  
1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了  
1990～1992年 南開大学留学  
1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学  
学位 博士 (文学) (立教大学、2010年3月)  
職歴 1996～1998年 立教大学非常勤講師  
1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員  
研究分野 日中関係論・日中近現代史  
主要業績

コバヤシ モトヒロ  
小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro

1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業  
1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了  
1990～1992年 南開大学留学  
1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学  
博士 (文学) (立教大学、2010年3月)  
1996～1998年 立教大学非常勤講師  
1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員  
日中関係論・日中近現代史

**著書**

- ①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』(共編、大月書店、1994年)
- ②『天津史—再生する都市のトポロジー』(共著、東方書店、1999年)
- ③『近代日中関係史人名辞典』(共著、東京堂出版、2010年)
- ④『近代中国の日本居留民と阿片』(単著、吉川弘文館、2012年)

**論文**

- ①「天津事件再考—天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民—」(『日本植民地研究』第8号、1996年)
- ②「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」(『年報日本現代史』第3号、1997年)
- ③「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」(『Opium Regimes—China, Britain, and Japan, 1839—1952』, Berkeley: University of California Press, 2000)
- ④「国有企業主体地域における私営企業の発展と政治経済体制—遼寧省の事例」(『中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価』霞山会、2002年)
- ⑤「歴史的“改革”與日本外交—以昭和初期為例」(『全球化與東亜政治、行政改革』天津人民出版社、2003年)
- ⑥「蒙疆の日本人居留民」(『日本の蒙疆占領1937—1945』研文出版、2007年)
- ⑦「満州事変期天津における対日ボイコット運動と日本居留民」(『近現代日本の戦争と平和』現代史料出版、2011年)
- ⑧「華北分離工作期北京の日本居留民」(『環日本海研究年報』第18号、2011年)

**その他**

- ①「日中関係再考」(『東アジア〈共生〉の条件』世織書房、2006年)
- ②「里見甫と宏済善堂 —『華中宏済善堂内容概記』他について—」(『年報日本現代史』第13号、2008年)
- ③ 翻訳「植民地期から戦後における台湾の社会運動史研究について(陳慈玉)」(『年報日本現代史』第13号、2008年)
- ④「二戦后日本の歴史教育與教科書問題」(『信賴・互惠・共生：東亜地区交流的歴史與現実』中国伝媒大学出版社、2010年)
- ⑤「中国の経済発展と歴史認識」(『史苑』第71巻第1号、2011年)
- ⑥「通州事件の語られ方」(『環日本海研究年報』第19号、2012年)
- ⑦「自著を語る —『近代中国の日本居留民と阿片』」(『近現代東北アジア地域史研究会NEWS LETTER』第24号、2012年)

所属学会

日本植民地研究会・近現代東北アジア地域史研究会・日本現代史研究会・中国現代史研究会・歴史学研究会



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | ササキ ヒロシ<br>佐々木 寛 SASAKI Hiroshi   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1966年6月29日生   |
| 職名   | 教授 (2008年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1990年 立教大学法学部卒業<br>1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学   |
| 学位   | 法学修士 (中央大学、1993年3月)   |
| 学歴   | 1996年～1998年 立教大学法学部助手<br>1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員 (PD)・中央大学法学部兼任講師<br>2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師<br>2003年～2008年 同大学准教授<br>2008年～2009年 カルフォルニア大学バークレー校客員研究員  |
| 研究分野 | 東アジアの平和および安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究<br>「グローバル・デモクラシー (地球民主主義)」の理論的・実証的研究  |
| 主要業績 | <b>著書・論文・訳書</b><br>① 「平和研究の理論的地平 — 21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号 (日本平和学会)、1996年6月<br>② 「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題 — D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号 (立教大学)、1998年2月<br>③ 「『地球社会』と民主主義原理 — 『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号 (立教大学)、2000年4月<br>④ 「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号、2000年8月<br>⑤ 『平和研究 第26号 — 新世紀の平和研究』(早稲田大学出版部) (編著)、2001年11月<br>⑥ 「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号 (新潟国際情報大学)、2002年3月<br>⑦ 「世界政治と市民 — 現代コスモポリタニズムの位相」高嶋通敏編『現代市民政治論』(世織書房)、2003年2月<br>⑧ 「イラク戦争と『安全保障』概念の基層」古城利明編『世界システムとヨーロッパ』(中央大学出版部)、2005年3月<br>⑨ 『東アジア安全保障の新展開』(明石書店) (共編著)、2005年4月<br>⑩ 「『戦争』を再考する」岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』(法律文化社)、2005年5月<br>⑪ 『東アジア〈共生〉の条件』(世織書房) (編著)、2006年3月<br>⑫ 「『平和』と『コミュニティ』 — グローバル化時代の『暴力』を越えて」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ—平和研究の新次元』(明石書店)、2007年9月<br>⑬ 「『新しい戦争』と日本—漂流する『安全保障』」岩崎稔他編『戦後日本スタディーズ③』(紀伊國屋書店)、2008年12月<br>⑭ P.ハースト『戦争と権力』(岩波書店) (単訳)、2009年2月<br>⑮ 「現代の平和主義」千葉眞編『平和の政治思想史』(おうふう)、2009年8月<br>⑯ 『地方自治体の安全保障』(明石書店) (共編著)、2010年8月<br>⑰ 「『グローバル・シティズンシップ』の射程」『立命館法学』第333・334号 (立命館大学)、2011年3月<br>⑱ 「政治理論における〈核〉の位置づけに関する若干の考察 — 『3・11』後の政治学のために」『立法法学』第86号 (立教大学)、2012年1月 など。 |
| 所属学会 | 日本国際政治学会 (将来構想委員)<br>日本平和学会 (理事) など。  |



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | サワグチ シンイチ<br>澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi  |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1959年2月10日生   |
| 職名   | 教授 (2005年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : sawashin@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業<br>1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得   |
| 学位   | 博士 (地理学) 明治大学、2001年3月   |
| 職歴   | 1990 ~ 1992年 日本学術振興会特別研究員<br>1992 ~ 1996年 明治大学文学部・国士舘大学文学部非常勤講師<br>1994 ~ 1996年 東海大学文学部非常勤講師<br>1996年 新潟国際情報大学専任講師  |
| 研究分野 | ①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。<br>②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>①『図説 日本の山 ― 自然が素晴らしい山50選 ―』(分担執筆) 朝倉書店、(2012年)<br>②『デジタルブック最新第四紀学』(分担執筆) 第四紀学会、(2010年)<br>③『新旧地形図で見る新潟県の百年 ― 明治~平成の変貌 ―』(分担執筆) 新潟日報事業社、(2010年)<br>④『南アルプス ― 地形と生物 ―』(分担執筆) 静岡県、(2010年)<br>⑤『山に学ぶ ― 歩いて観て考える山の自然』(編著) 古今書院、(2005年)<br>⑥『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会、(2005年)<br>⑦『百名山の自然学』(分担執筆) 古今書院、(2002年)<br>⑧『第四紀露頭集 ― 日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会、1996年)<br>⑨『世界の山々』(分担執筆) (古今書院、1995年)<br><b>論文</b><br>①「アラスカ中部イーグルサミットにおける地温と凍上および斜面物質移動の観測」(地学雑誌、120-6.2012年)<br>②「北上川上流域における周氷河インボリューション形成の年代」(季刊地理学 58-4.2007年)<br>③「南アルプス大聖寺平の大型ソリフラクションローブ」増澤弘武編『南アルプスの自然』所収.2007年、静岡県<br>④「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen,Svalbard」(Geographical Review of Japan,77-5.2004年)<br>⑤「北極圏カナダ、エルズミア島 オープロイヤール湾地域における第四紀後期の氷河作用」(駿台史学.123号、2004年)<br>⑥「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」(Cryospheric Studies in Kamchatka II ,1999年)<br>⑦「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌、107-5 1998年) |
| 所属学会 | 日本地理学会<br>日本第四紀学会<br>東北地理学会<br>東京地学協会   |
| その他  | ・1990 ~ 1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査<br>・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査<br>・2001、2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。<br>・2004年、アラスカ大学フェアバンクス校客員研究員   |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | シン ウンジュ<br>申 銀珠 SHIN Eunju   |
| 性別   | 女  |
| 生年月日 | 1958年3月4日生   |
| 職名   | 教授（2006年4月）  |
| 連絡方法 | E-mail : shin@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 韓国外国語大学及び大学院（修士課程）修了後、<br>お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了  |
| 学位   | 博士（人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月）  |
| 職歴   | 日本学術振興会外国人特別研究員、<br>名古屋大学言語文化部非常勤講師（1998.4～2001.3）   |
| 研究分野 | 韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。特に、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び〈在日文学〉について研究を進めている。   |
| 主要業績 | <p><b>論文</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「韓国近代文学の中の日本文学 — 『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」（単著）『人間文化研究年報』第16号（お茶の水女子大学、1993.2）</li> <li>② 「朱耀翰と川路柳虹」（単著）『淵叢』第2号（淵叢の会、1993.3）</li> <li>③ 「〈朝鮮〉から見た中野重治 — 植民地知識人の自画像を求めて —」（単著）『国際日本文学研究集会会議録』第17回（国文学研究資料館、1994.10）</li> <li>④ 「韓国における高橋新吉」（単著）『国文』第82号（お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1）</li> <li>⑤ 「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」（単著）（韓国語）『日語日文学研究』第28輯（韓国日語日文学会、1996.6）</li> <li>⑥ 「中野重治と韓国プロレタリア文学運動 — 林和、李北満との関係を中心として —」（単著）『日本研究』第12号（韓国外国語大学校日本研究所、1998.2）（韓国語）</li> <li>⑦ 「日本統治期の韓国人作家と日本語」（単著）『日本近代文学』第63集（日本近代文学会、2000.10）</li> <li>⑧ 「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』— 民族・民族問題をめぐって—」（単著）『淵叢』第10号（淵叢の会、2001.8）</li> <li>⑨ 「中野重治、詩的精神の憤怒の行方— 〈君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍る〉をめぐって」（単著）『国文学』第47巻1号（學燈社、2002.1）</li> <li>⑩ 「ソウルの異邦人、その周辺— 李良枝『由熙』をめぐって—」（単著）『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第7号（2004.3）</li> <li>⑪ 「中野重治と日本の天皇制」（単著）『日本近代文学— 研究と批評4』（韓国日本近代文学会、2005.10）（韓国語）</li> <li>⑫ 「朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像」（単著）『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号、（2006.6）</li> <li>⑬ 「予感する〈女〉たち — 韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって—」（単著）『国文学解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子』（至文堂、2006.7）</li> </ol> <p><b>その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 玄月『蔭の棲みか』（文学トンネ、2000.11）（共訳）</li> <li>② 玄月『悪い噂』（文学トンネ、2002.11）（共訳）</li> <li>③ 堀江敏幸『熊の敷石』（文学トンネ、2005.3）（共訳）</li> <li>④ 平野啓一郎『滴り落ちる時計たちの波紋』（文学トンネ、2008.2）（共訳）</li> <li>⑤ 平野啓一郎『あなたが、いなかった、あなた』（文学トンネ、2008.9）（共訳）</li> </ol> |
| 所属学会 | 日本近代文学会、朝鮮学会、お茶の水女子大学国語国文学会、韓国日本近代文学会、韓国日本言語文化学会   |





|      |  |
|------|--|
| 氏名   | タカハシ マサキ<br>高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1956年3月1日生   |
| 職名   | 教授 (2005年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : tmasaki@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1981年 中央大学法学部政治学科卒業<br>1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学   |
| 学位   | 法学修士 (中央大学、1985年3月)  |
| 学歴   | タマサート大学 (タイ) 客員研究員<br>中央大学法学部兼任講師<br>白鷗大学法学部非常勤講師<br>東京外国語大学外国語学部非常勤講師   |
| 研究分野 | 現在の研究上の関心分野は政治学的な観点から二つあります。ひとつはタイを中心とする東南アジア政治経済であり、もうひとつは国家と国際的な要因との関係の理論的考察です。前者では、現在進行中のタイの政治変動を歴史的、国際的な観点から分析しています。タイでは現在、1932年の立憲革命や1958年のサリット将軍によるクーデタによって構築されたタイの政治支配層の解体の可能性をあらんだ変化が生じています。その国際的な背景は、カンボジア紛争の解決による東南アジア国家間関係の安定化とグローバリゼーションによる経済成長です。また、タイの近隣諸国外交も重要なテーマになります。たとえば、タイ政府はビルマ(ミャンマー)との経済関係強化を優先しビルマ軍事政権を容認しています。<br>後者の研究では、国家を国際環境との関係から研究しています。戦争と国際システム(ウェストファリア体制)と国際経済(グローバリゼーション)という三つの国際的要因から、国家のあり方を解明できないかと考えています。とくに、グローバリゼーション時代には国家は後退したのではなく変容したのだと考え、国家の権力性を批判的に強調します。これは、日本社会の格差や福祉国家政策の後退なども視野に入れていますが、当然、タイや東南アジアの具体的な研究と密接に関係しています。   |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>①「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序 — 交易港と権威交易体制 —」『法学新報』第96巻1・2号(中央大学法学会)、1989年11月<br>②「アロンの国際関係論の認識論的検討 — その自然状態を中心に —」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第1号、1998年3月<br>③「西欧におけるグローバリゼーションと国民国家 — 国家の脱国民国家化への視座を求めて —」『法学新報』110巻5・6号(中央大学法学会)、2003年8月<br>④「グローバリゼーションとタイ国家論 — 分裂する社会、対立する言説 —」滝田賢治編著『グローバル化とアジアの現実』中央大学出版部、2005年3月<br>⑤「戦争、諸国家システム、国家 — 歴史社会学の可能性と問題点 —」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年3月<br>⑥「タイの地域主義の歴史的考案—東南アジアの多層的国際秩序研究—」『法学新報』第115巻9・10号(中央大学法学会)、2009年3月<br>⑦「タクシンとタイ政治 — 平等化の政治プロセスとしての紛争と和解 —」松尾秀哉・臼井陽一郎編『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版、2013年3月<br>⑧「大タイ主義とアジア主義の交差 — タイの失地回復運動と日本の南進政策 —」松浦正孝編『アジア主義は何を語るのか』ミネルヴァ書房、2013年2月<br>⑨「タイの失地回復運動が求めた領土と民族 — 大陸部東南アジアの潜在的な地域国際秩序 —」『法学新報』(中央大学法学会)第119巻9・10号、2013年3月 |
| 所属学会 | 日本国際政治学会・東南アジア学会・日本政治学会・日本平和学会・北東アジア学会・地域文化学会・日本タイ学会・アジア政経学会・日本比較政治学会  |
| その他  | タマサート大学(タイ)客員研究員(1986～88年、1992～1994年、2001～2002年)<br>アメリカでの調査・研究(1995～1996年)  |



氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴

グレゴリー ハドリー

Gregory Hadley

男

1965年3月12日生

教授（2005年4月）

E-mail : hadley@nuis.ac.jp

1987年 Northwest Missouri State University, USA

コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業

1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary, USA

神学専攻修士課程修了

1997年 University of Birmingham, UK

応用言語学専攻修士課程修了

学位  
職歴  
研究分野

Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)

1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師

① Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化  
リサーチ。

② 国際英語教育の社会学

③ オーラル・ヒストリー研究と地域史

主要業績

著書

① 『Field of Spears: The Last Mission of the Jordan Crew』 Sheffield, UK:Paulownia Press. 2007.

② Hadley, G. (Ed.). (2003). "Action Research in Action." Singapore: SEMEO Regional English Language Centre.

論文

① 「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral Communications in Japanese EFL Classrooms」(『長岡工業高等専門学校研究紀要』、1998年)

② 「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New Millennium」(『RELC Journal』,1998年)

③ 「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」  
『ELT Journal』,1999年)

④ 「Constructions across a Cultural Gap」(共著)  
(『Action Research』,TESOL、2001年)

⑤ 「A Forecast for the Early 21<sup>st</sup> Century」(全国語学教育学会、2001年)

⑥ 「Sensing the Winds of Change: An Introduction to Data-Driven Learning」  
(『RELC Journal』,2002年)

⑦ "Money, Politics and Religion:A Survey of Anglo-American Influence in  
TESOL." 3L Journal of Language Teaching,Linguistics & Literature 9,11-33  
(2005年)

⑧ "International English and the Anglo-American Hegemony: Quandary in  
the Asian Pacific Region." Explorations in Teacher Education 12 (2) ,44-  
50. (2004年)

⑨ "Relating the Curriculum to Regional Concerns:A Japanese Case Study."  
GEMA journal 3 (2) ,78-99. (2003年)

⑩ Hadley, G. (2006). "ELT and the New World Order: Nation Building or  
Neocolonial Reconstruction?" Issues in Political Discourse Analysis 1 (1) ,23-48.

⑪ Hadley, G. & Oglethorpe, J. (2007). "MacKay's Betrayal: Solving the  
Mystery of the 'Sado Island Prisoner-of-War Massacre'." Journal of Military  
History 71 (2), 441-464.

⑫ グレゴリー・ハドリー、石井信平(訳)「竹槍の村に墜ちたB-29(上)」(2008  
年4月号)「世界」269-277.

⑬ グレゴリー・ハドリー、石井信平(訳)「竹槍の村に墜ちたB-29(下)」(2008  
年5月号)「世界」258-266.

所属学会

全国語学教育学会 (JALT)

International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL)

大学英語教育学会 (JACET)





アレクサンドル プラーソル

|      |  |
|------|--|
| 氏名   | Alexander Prasol   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1952年10月26日生   |
| 職名   | 教授（2000年4月）  |
| 連絡方法 | E-mail : prasol@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1975年 極東国立大学（ロシア）日本語文学科卒業<br>1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程修了   |
| 学位   | 文学修士（Master of Linguistics モスクワ大学、1979年）<br>歴史博士（Doctor of History 極東大学、2005年）   |
| 職歴   | 1978～1980年 極東大学東洋学部助手<br>1980～1985年 同学部専任講師<br>1985～1991年 同学部助教授<br>1991～1994年 新潟大学教養部助教授<br>1994～1999年 新潟大学人文学部助教授  |
| 研究分野 | 大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目で見た日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。  |
| 主要業績 | <p><b>著書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①『日本語会話』（共著）極東大学出版部 1984年、172頁</li> <li>②『日本語会話における終助詞』（単著）極東大学出版部 1989年、1999年出版、170頁</li> <li>③『日本教育の成立』（8～19世紀）（単著）ダリナウカ出版、2001、391頁</li> <li>④「明治時代の教育」（1868-1912）（単著）ダリナウカ出版、2002、358頁</li> <li>⑤「自治体外交」市岡政夫著（ロシア語単訳）ダリナウカ出版、2004、300頁</li> <li>⑥『日本：時代の相貌 — 現代社会の伝統とメンタリティー』（単著）ナタリス出版、2008、360頁</li> <li>⑦『日本：時代の相貌 — 現代社会の伝統とメンタリティー』（単著）（増訂版）ナタリス出版、2009、416頁</li> <li>⑧「Modern Japan: Origins of the Mind. Japanese Traditions and Approaches to Contemporary Life.」（単著）World Scientific, 2010, 352p.</li> <li>⑨「江戸 — 東京往復。徳川時代の文化・生活様式・習俗」（単著）モスクワ、アストレリ・コルプス出版、2012、528P.</li> </ul> <p><b>論文</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「日本語条件形式の用法をめぐって」（単著）、1995年（新潟大学）</li> <li>②「現代ロシア語における俗語と隠語について」（単著）、1996年（新潟大学）</li> <li>③「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」（単著）、1998年（ウラジオストク）</li> <li>④「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」（単著）、1999年（新潟大学）</li> <li>⑤「徳川時代の文化と家庭教育」（単著）、2001年（ウラジオストク）</li> <li>⑥「明治初期教育制度の変遷」（1868～1871年）新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年</li> <li>⑦「ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して」（単著）新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007年</li> </ul> |
| 所属学会 | ヨーロッパ日本研究学会（European Association for Japanese Studies）   |



氏名 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko  
 性別 女  
 生年月日 1961年2月22日生  
 職名 教授 (2011年4月)  
 連絡方法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp  
 学歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業  
 1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了  
 1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学  
 学位 文学修士 (法政大学、1991年3月)  
 職歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)  
 受賞歴 1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞  
 研究分野 アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)  
 主要業績

ヤグチ ユウコ

矢口 裕子 YAGUCHI Yuko

女

1961年2月22日生

教授 (2011年4月)

E-mail : yaguti@nuis.ac.jp

1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業

1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学

文学修士 (法政大学、1991年3月)

東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)

1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞

アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)

著書

『東アジア〈共生〉の条件』世織書房、(2006.3) 共著

論文

- ① “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)” 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁)、(1992.3)
- ② “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)” 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁)、(1993.3)
- ③ 「Sam Shepard, *Fool for Love* — カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁)、(1994.2)
- ④ 「Sam Shepard, *A Lie of the Mind* — 新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁)、(1996.3)
- ⑤ “The Text That Is the Writer—Anais Nin's Diary” *Anais—An International Journal*. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) , (1998.3)
- ⑥ “The Imaginary Father” *Anais—An International Journal*. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) , (2000.3)
- ⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁)、(2000.6)
- ⑧ 「性/愛の家のスパイ—Henry&Juneから読み直す Anais Nin」日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁)、(2003.10)
- ⑨ “Twittering Machine of Paradise—Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters” *A Cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.1.Sky Blue Press (pp.106-17) , (2003.11)
- ⑩ 「アナイス・ニンの娘たち—冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12)、(2004.2)
- ⑪ 「ロマンティック・クィア—草野マサムネ ジェンダー試論」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号 (pp.39-50)、(2005.3)
- ⑫ “A Spy in the House of Sexuality:Rereading Anais Nin through *Henry & June*” *A cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.4. Sky Blue Press (pp.22-34) , (2007.3)
- ⑬ 「アナイス・ニンの「ジューナ」—『人工の冬』パリ版から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号 (pp.57-60)、(2007.5)
- ⑭ 「アナイス・ニン『人工の冬』パリ版という旅」『水声通信』第28号 (pp.23-35)、(2009.5)
- ⑮ 「想像の父を求めて—『インセスト』論への前奏曲」『水声通信』第31号 (pp.135-144)、(2009.9)

所属学会

日本アメリカ文学会

日本英文学会

日本女性学会

日本平和学会

日本ヘンリー・ミラー協会



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | ヨシザワ フミトシ<br>吉澤 文寿 YOSHIZAWA Fumitoshi  |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1969年1月7日生  |
| 職名   | 教授 (2011年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : yosizawa@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1992年3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程卒業<br>1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了<br>2004年7月 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了  |
| 学位   | 社会学博士 (一橋大学、2004年7月)  |
| 学歴   | 2000年3月～ 2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師<br>2002年10月～ 2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化大学・明星大学非常勤講師  |
| 研究分野 | 朝鮮現代史、日朝関係史。主に外交における植民地責任問題の展開について考察している。また、在日朝鮮人の歴史や、現在の分断体制下の朝鮮における植民地主義についても研究課題としていきたいと考えている。今後、他国の事例と比較しながら、日本と朝鮮における植民地主義及び植民地責任をめぐる諸問題について考察を深めていきたい。  |
| 主要業績 | <p><b>著書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐる』クレイン、2005年 (単著)</li> <li>② 同時代史学会編『朝鮮半島と日本の同時代史』日本経済評論社、2005年 (共著)</li> <li>③ 板垣竜太・田中宏編『日韓 新たな始まりのための20章』岩波書店、2007年 (共著)</li> <li>④ 永原陽子編『植民地責任論—脱植民地化の比較史』青木書店、2009年 (共著)</li> <li>⑤ 国民大学校日本学研究所編『議題で見た韓日会談〔外交文書公開と韓日会談の再照明2〕』ソニン (ソウル)、2010年 (共著)</li> <li>⑥ 朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会、2011年 (共著)</li> <li>⑦ 和田春樹ほか編『ベトナム戦争の時代1960—1975年 (岩波講座東アジア近現代通史 第8巻)』岩波書店、2011年 (共著)</li> <li>⑧ 李鍾元ほか編『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ 脱植民地化編』法政大学出版局、2012年 (共著)</li> </ul> <p><b>論文・その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「研究動向 日韓会談研究の現状と課題」(『歴史学研究』813、2006年4月)</li> <li>② 「植民地支配の「清算」とは何か—朝鮮を事例として」(『歴史評論』677、2006年9月)</li> <li>③ 「日本における日韓会談関連外交文書の公開状況について—財産請求権問題を中心に」(『日本空間』〈韓国国民大学校日本学研究所〉4、2008年11月)</li> <li>④ 「日韓国交正常化と残された課題」(『戦争責任研究』66、2009年12月)</li> <li>⑤ 「日本における植民地主義の現在 外国人参政権問題を中心に」(『現代韓国朝鮮研究』10、2010年11月)</li> <li>⑥ 「日韓会談における「在日韓国人」法的地位交渉 — 国籍・永住許可・退去強制問題を中心に」(『朝鮮史研究会論文集』49、2011年10月)</li> <li>⑦ 「日韓請求権協定と戦後補償問題の現在 第2条条文化過程の検証を通して」(『体制移行期の人権回復と正義 [平和研究 第38号]』、2012年4月)</li> <li>⑧ 浅野豊美・季東俊・吉澤文寿共編『日韓国交正常化問題資料』現代史料出版、2010年～刊行中</li> </ul> <p><b>所属学会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史学研究会</li> <li>在日朝鮮人運動史研究会</li> <li>朝鮮史研究会</li> <li>同時代史学会</li> <li>日本平和学会</li> <li>韓日民族問題学会 (韓国)</li> </ul> |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | アンドウ ジュン<br>安藤 潤 ANDO Jun  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1968年3月25日生  |
| 職名   | 准教授（2003年4月）   |
| 連絡方法 | E-mail : ando@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業<br>1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了<br>2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了  |
| 学位   | 学士（経済学）（早稲田大学、1992年3月）<br>修士（経済学）（早稲田大学、1994年3月）   |
| 職歴   | 国土舘大学政経学部・法学部非常勤講師（2002年4月～2010年3月）<br>中央大学経済研究所特別研究員（2002年10月～）<br>ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ現代日本研究所客員研究員（2010年9月～2010年12月）<br>コーネル大学経済社会研究センター・東アジアプログラム客員研究員（2011年1月～2011年8月）   |
| 研究分野 | ①研究テーマ：防衛支出がマクロ経済に与える影響に関する実証分析<br>キーワード：防衛支出、externality effect, 政府支出の代替性・補完性<br>研究形態：個人研究<br>②研究テーマ：アイデンティティと経済行動<br>キーワード：行動経済学、家計経済学、家事分担、ジェンダー・ディスプレイ<br>研究形態：個人研究  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>①『経済政策の理論と現実』（共著、2009年2月、学文社、共著者：長谷川啓之、馬場正弘、辻忠博）、担当：「第1章 経済政策の基本問題」（7-25頁）、「第5章 格差問題と政府の役割」（87-111頁）、「第7章 グローバル経済における家計経済」（132-154頁）、「第8章 少子高齢化と政府の役割」（155-175頁）<br>②『平成不況』（共著、2010年3月、文眞堂、共著者：松本保美、塚原康博、鍵田亨、永富隆司、得田雅章）、担当：「3 近年の消費者行動」（106-126頁）<br>③『入門 現代経済学要論』（共著、2010年4月、白桃書房、共著者：青木孝子、塚原康博、鍵田亨）   |
|      | <b>論文</b><br>① Ando, Jun, 2011a, "Husbands' Housework Sharing Behavior in Japan: Field Experiments on Identity and Gender," CSES Working Paper, 59: 1-35.<br>② Ando, Jun, 2011b, "Dual-Earner Couples' Housework Behavior in Japan: Exchange, Display, or 'Her Money'?", CSES Working Paper, 61: 1-27.<br>③ Ando, Jun, 2011c, "Identity and Couples' Housework Sharing: Virtual Experiment on Husbands' Gender Display," The Japanese Economy, 38 (3) : 3-29.<br>④ 安藤潤、2012a、「共稼ぎ夫婦の家事労働行動の変化：JPSCコーホートAの実証分析から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』、15:37-58.<br>⑤ 安藤潤、2012b、「JGSSデータ2006を用いた共稼ぎ夫婦の家事労働行動に関する実証分析」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』、15:59-70.<br>⑥ 安藤潤、2013b、「共稼ぎ夫婦の家事労働分担行動に関するジェンダー・ディスプレイ：家事生産アプローチからの実証分析」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』、16:21-32.<br>⑦ 安藤潤、2013a、「共稼ぎ夫婦の夕食・中食利用と家事労働削減：JGSS-2006を用いた実証分析を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』、16:33-51. |
| 所属学会 | 日本経済政策学会・日仏経済学会  |





|      |   |
|------|---|
| 氏名   | カミナガ エイスケ<br>神長 英輔 KAMINAGA Eisuke  |
| 性別   | 男   |
| 職名   | 准教授 (2010年9月)   |
| 連絡方法 | E-mail : kaminaga@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1998年 東京大学教養学部教養学科第二卒業<br>2001年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了<br>2006年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了  |
| 学位   | 博士 (学術、東京大学、2006年12月)   |
| 職歴   | 1998年8月～1999年8月 サハリン日本センター所長補佐<br>2001年4月～2004年3月 日本学術振興会特別研究員 (DC1・東京大学)<br>2004年4月～2007年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD・東京大学)<br>2005年4月～2012年9月 東京大学教養学部非常勤講師<br>2007年5月～2008年2月 株式会社ジーニアスエデュケーション常勤講師<br>2009年4月～2010年3月 青山学院女子短期大学非常勤講師<br>2009年4月～2010年3月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師<br>2012年10月～2013年3月 新潟県立大学非常勤講師<br>2013年4月～2013年9月(予定) 東京大学大学院総合文化研究科客員准教授  |
| 研究分野 | 日露関係史。具体的には、サハリン・樺太の歴史、北洋漁業と「北洋」概念の歴史、現代日本文化における「ロシア」表象の変遷、「うたごえ運動」の歴史、北東アジアにおけるコンブの生産・流通の歴史を研究。  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>① 中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社、2013年 (共著)<br>② 原暉之編『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年 (共著)<br>③ 中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる V 来日ロシア人の足跡』成文社、2010年 (共著)<br>④ 関東都督府陸軍經理部編『満洲誌草稿 第三輯 接壤地方誌 卷三』クレス出版、2002年 (解題部分を共著)<br><b>論文</b><br>① 「うたごえ運動とは何か ミーム学の視点から考える」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第15号、2012年4月、1-14頁<br>② 「コンブの道 サハリン島と中華世界」『ロシア史研究』第88号、2011年5月、64-78頁<br>③ "Maritime History and Imperiology: Japan's Northern Fisheries and the Priamur Governor-Generalship" in Matsuzato Kimitaka, ed., Imperiology: From Empirical Knowledge to Discussing the Russian Empire, Sapporo, 2007, pp.259-273 (Slavic Research Center, Hokkaido University)<br>④ 「ロシア極東の漁業と日本人 一八七五年から一九〇四年まで」『歴史と地理 日本史の研究』山川出版社、第590号、2005年12月、1-17頁<br>⑤ 「日本の対サハリン島政策 1875-1904」『年報 地域文化研究 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』第8号、2005年3月、88-107頁<br>⑥ 「プリアムール総督府管内における漁業規制と漁業振興1884-1903」『ロシア史研究』第73号、2003年10月、37-54頁<br>⑦ 「北東アジアにおける近代捕鯨業の黎明」『スラヴ研究』第49号、2002年、51-79頁<br>⑧ 「露米会社と捕鯨業」『ロシア史研究』第69号、2001年10月、2-15頁 |
| 所属学会 | 歴史学研究会、ロシア史研究会、来日ロシア人研究会、サハリン・樺太史研究会  |
| その他  | 2008年10月～2010年9月 東京大学大学院総合文化研究科学術研究員<br>2008年10月～2012年3月 国立民族学博物館共同研究員  |



氏名 熊谷 卓 KUMAGAI Taku  
 性別 男  
 生年月日 1969年1月25日生  
 職名 准教授 (2004年4月)  
 連絡方法 E-mail : takuk@nuis.ac.jp  
 学歴 1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業  
 2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学  
 学位 法学修士 (広島大学、1994年3月)  
 学歴 1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師  
 1997年～1999年 広島大学法学部助手  
 1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師  
 2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師  
 2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

研究分野 国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。

主要業績

クマガイ タク

熊谷 卓 KUMAGAI Taku

男

1969年1月25日生

准教授 (2004年4月)

E-mail : takuk@nuis.ac.jp

1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業

2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学

法学修士 (広島大学、1994年3月)

1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師

1997年～1999年 広島大学法学部助手

1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師

2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師

2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。

著書

①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著) (不磨書房、2002年)

論文

①「国家管轄権の域外適用—アメリカ合衆国反トラスト法を中心に—」1995年3月『広島法学』18巻4号 181-208頁。

②「国際テロリズムの法的規制」1996年3月『広島法学』19巻4号 257-300頁。

③「欧州連合 (EU) と国際テロリズム」1997年2月『広島法学』20巻3号 203-235頁。

④「犯罪人引渡と国際テロリズム—フランス共和国の立法および判例から」1998年2月『広島法学』21巻3号 95-133頁。

⑤「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」1999年2月 1999年3月『広島法学』22巻3号 37-60頁 22巻4号 117-138頁。

⑥「国家テロリズムと国際法—ロッカビー事件を手がかりとして」2002年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』5号 115-154頁。

⑦「誰がテロリストを裁くのか?—合衆国軍事委員会と国際人権法—」2003年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』6号 87-101頁。

⑧「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否—グアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から」2004年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』7号 119-159頁。

⑨「判例紹介 対テロ戦争と人権—グアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断」2005年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』8号 119-133頁。

⑩「対テロ戦争と国際人権法—グアンタナモの被拘束者に対する市民的および政治的権利に関する国際規約 (自由権規約) の適用可能性—」2005年12月『広島法学』29巻2号 81-116頁。

⑪「テロリズムを契機とする国家の国際法上の責任に関する序論的考察」2008年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』11号 15-29頁。

⑫「テロリズムと人権—テロ被疑者の処遇を素材として—」2009年8月『国際法外交雑誌』108巻2号 91-119頁。

⑬「テロとは何か — 国連包括的テロ防止条約における『テロリズム』の位置づけ —」2010年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』13号 63-70頁。

⑭「国際人権法と死刑」『法律時報』82巻7号 (日本評論社、2010年6月) 48-52頁。

⑮「『対テロ戦争』へのジュネーヴ諸条約の適用—ハムダン事件』『国際法判例百選 (第2版)』(有斐閣、2011年)。

⑯「国際テロリズムと条約の役割 — 引渡または訴追の規定を中心に —」2013年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』16号 65-80頁。

所属学会

世界法学会・国際法学会・米国国際法学会





|      |   |
|------|---|
| 氏名   | マツオ ミズホ<br>松尾 瑞穂 MATSUO Mizuho  |
| 性別   | 女   |
| 生年月日 | 1976年6月20日生   |
| 職名   | 准教授 (2013年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail: matsuom@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1999年南山大学文学部人類学科卒業<br>2002年名古屋大学大学院国際開発研究科博士前期課程修了<br>2007年総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程単位取得退学   |
| 学位   | 博士 (文学) (総合研究大学院大学、2008年)   |
| 学歴   | 2006年～2007年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)<br>2007年～2008年 日本学術振興会特別研究員 (PD / 国立民族学博物館)<br>2008年～2010年 日本学術振興会特別研究員 (PD / 京都大学)<br>2008年～2010年 同朋大学、三重県立看護大学、京都外国語大学、神戸市立外国語大学ほか非常勤講師<br>2010年4月 新潟国際情報大学専任講師  |
| 研究分野 | 文化人類学、医療人類学、ジェンダー研究、身体論、南アジア地域研究  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>『医療人類学のレッスン』(共著) (学陽書房、2007年)<br>『世界の出産—儀礼から先端医療まで』(共著) (勉誠出版、2011年)<br>『コンタクト・ゾーンの人文学1—問題系』(共著) (晃洋書房、2011年)<br>『世界の食に学ぶ—国際化の比較食文化論』(共著) (時潮社、2011年)<br>『ジェンダーとリプロダクションの人類学 — インド農村社会の不妊を生きる女性たち』(単著) (昭和堂、2013年)<br><b>論文</b><br>① 「出産の近代化政策における「伝統的」産婆—インドのTBAトレーニングをめぐる価値と実践—」(『民族学研究』第68巻1号、2003年)<br>② 「帝国医療とネイティブ女性—バースコントロールにおける身体の「管理」と女性の「救済」—」(『地域研究論集』第7巻2号、2006年)<br>③ 「「一人か二人、それで十分!」—マハーラーシュトラ農村社会における家族計画の実践—」(『マハーラーシュトラ』第11号、2006年)<br>④ 「インドにおける生殖医療技術と不妊の医療化—マハーラーシュトラ・プネーの医師の言説から」(『南アジア研究』第19号、2007年)<br>⑤ 「生命という不確実性とリスク—インドにおける代理懐胎をめぐる—」(『Kyoto Working Paper』G-COE series29、2009年)<br>⑥ 「代理懐胎のパラドックス—インド」(『アジア遊学』第119号、2009年)<br>⑦ 「「回復」を希求する—インドにおける不妊と「流産」の経験」(『文化人類学』第74巻3号、2009年)<br>⑧ 「争点化するセクシュアリティ—植民地期インドにおけるR.D.カルヴェーの思想と活動を中心に」(『南アジア研究』第21号、2009年)<br>⑨ 「ジェンダー化されたサファリング—不妊の病因論と経験の組織化」(『コンタクト・ゾーン』第3号、2010年)<br>⑩ 「現代インドにおける都市中間層と葬送儀礼の変化—ナラヤン・ナーグ・バリ儀礼を事例として」(『年報人類学研究』(南山大学人類学研究所)第1号、2011年) |
| 所属学会 | 日本文化人類学会、日本南アジア学会、宗教と社会学会   |
| その他  | プネー大学 (インド) 社会学部外来研究員 (2003～2005年)<br>国立民族学博物館共同研究員 (2007年～)<br>ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (英国) 客員研究員 (2010年)<br>人間文化研究機構地域研究推進事業研究分担者 (2010年～)<br>科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「インド農村社会における不妊をめぐる生殖医療と多元的医療実践に関する人類学的研究」研究代表者 (2006～2008年)<br>科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「現代インドにおけるいのちの医療化と生命倫理の多元性に関する人類学的研究」研究代表者 (2008～2010年)<br>科学研究費補助金 (研究スタート支援) 「現代インドにおける生命科学の文化論構築」研究代表者 (2010～2012年)  |



氏名 ポール ディキンソン  
 Paul Dickinson  
 性別 男  
 生年月日 1965年6月1日生  
 職名 契約講師 (CEP) (2011年4月)  
 連絡方法 E-mail : dickinsn@nuis.ac.jp  
 学歴 1998 University of Newcastle, Australia. BA (Hons) in English.  
 2001 Australian College of English, Sydney, Australia. Cambridge CELTA.  
 2010 University of Birmingham, UK. MA in Applied Linguistics.  
 学位 修士 (言語学)  
 職歴 NOVA, Yamagata. Instructor. (1999 - 2001)  
 Sydney College of English, Sydney, Australia. English Teacher. (2001 - 2002)  
 James English School, Akita. English Teacher. (2002 - 2004)  
 Akita National College of Technology, Akita. English Teacher. (2002 - 2004)  
 James English School, Sendai and Yamagata. English Teacher. (2004 - 2010)  
 Japan International Cooperation Agency Training Center, Komagane, Nagano.  
 Instructor. (2010)  
 研究分野 Formulaic Language  
 Learner Autonomy and Motivation  
 Electronic Discourse and Social Media  
 所属学会 JALT (The Japan Association for Language Teaching)  
 JALT Learner Development SIG (Special Interest Group)  
 JALT Pragmatics SIG  
 FLARN (Formulaic Language Research Network)



氏名 Michael Ruddick  
 性別 男  
 生年月日 1966年5月25日生  
 職名 契約講師 (CEP) (2008年9月)  
 連絡方法 E-mail : ruddick@nuis.ac.jp  
 学歴 Blakelaw School, Newcastle upon Tyne, England, 1977 - 1982. O levels  
 Newcastle College, England, 1992 - 1993 Higher Education Foundation Course  
 in English Literature, English Language and Historical Studies  
 University of Sunderland, England, 1993 - 1996 BA (Hons) Degree (2:1) in  
 English Studies  
 Newcastle College, England, February - May 1997 Certificate in English  
 Language Teaching to Adults  
 University of Birmingham, England. October 2005 to September 2008.  
 Graduated December 2008.  
 MA in TEFL  
 職歴 Shumei Eiko high school, Saitama. English Teacher (2006 – 2008)  
 Niigata Prefecture Board of Education, Niigata. English Teacher (2002 – 2005)  
 NOVA Intercultural Institute, Nagaoka, Japan, November (1999 – 2001)  
 研究分野 Sociocultural Theory  
 Critical Discourse Analysis  
 Research Methods  
 所属学会 Niigata JALT – Program Chair

# 情報 システム学科

---

内田 亨  
上西園 武良  
岸野 清孝  
桑原 悟  
小林 満男  
近藤 進  
白井 健二  
高木 義和  
高橋 正平  
谷本 和明  
槻木 公一  
西山 茂  
藤瀬 武彦  
藤田 晴啓  
石井 忠夫  
石川 洋  
小宮山 智志  
佐々木 桐子  
近山 英輔  
山下 功  
伊村 知子  
河原 和好  
中田 豊久







|      |   |
|------|---|
| 氏名   | ウチダ トオル<br>内田 亨 UCHIDA Toru   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1961年6月6日生  |
| 職名   | 教授 (2012年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : uchida@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1985年3月中央大学文学部文学科英米文学専攻卒業<br>2000年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際経営学 (MBA) 修了<br>2007年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学博士課程修了  |
| 学位   | 博士 (学術、早稲田大学、2007年6月)<br>経営学修士 (MBA、早稲田大学、2000年3月)  |
| 職歴   | 1985年4月～ 1990年7月ライオン株式会社薬品事業部大阪本店営業課課員<br>1990年8月～ 1993年7月ライオン歯科材株式会社大阪本店販売促進課課員<br>1994年3月～ 1995年1月日本ロシュ株式会社試薬本部福岡支店営業課課員<br>1995年2月～ 1998年7月日本ロシュ株式会社試薬本部PCR (遺伝子診断) ビジネスユニット福岡支店Sales Planning<br>2004年10月～ 2005年3月リヨン経営大学非常勤講師<br>2007年4月～ 2012年3月西武文理大学サービス経営学部准教授   |
| 研究分野 | 組織論をベースにした日仏における営利・非営利組織を対象に、<br>①経営管理論、②ガバナンス論、③ステークホルダー理論   |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>①『医療ガバナンス — 医療機関のガバナンス構築を目指して』(編著) 日本医療企画、2010年<br><b>論文</b><br>①「日米コーポレート・ガバナンスの課題と日本の経営で共感される価値観 — 人間的経営を包含した経営哲学を目指して —」『西武文理大学研究紀要』第18号、pp.60-79、2011年<br>②「ステークホルダー・ダイアログが組織に与える影響 — 組織と自治体・市民・地元団体間の事例を通して —」『日本大学ビジネス・リサーチ』第7巻、pp.122-131、2010年<br>③「多様な組織体の関係性による価値創造のフレームワーク構築 — フランスにおける温泉リゾート (エビアン・レ・バン) の事例を通して —」『西武文理大学研究紀要』第13号、pp.3-12、2008年<br>④「病院とコミュニティの共進化 — 専門知と非専門知による価値創造 —」『オフィス・オートメーション学会誌』Vol.27、No1、pp.55-63、2006年<br>⑤「医療機関へのBSCの導入と情報マネジメント」『経営情報学会誌』Vol.14 No4、pp.85-98、2006年<br>⑥「グループ経営の進展と持株会社の役割」『国際経営・システム科学研究』第35号、pp.17-34、2004年 |
| 所属学会 | 組織学会、経営情報学会、日本情報経営学会、日本経営品質学会、ITヘルスケア学会、日本医療・病院学会、地域デザイン学会  |
| その他  | 新経営革新研究会主宰、日本クリニカル・ガバナンス研究会会員<br>地域デザイン学会理事 (2012年～)、新潟県農業共済組合連合会コンプライアンス委員会委員 (2012年～)   |





|      |   |
|------|---|
| 氏名   | カミニシゾノ タケヨシ<br>上西園 武良 KAMINISHIZONO Takeyoshi   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1951年5月17日生   |
| 職名   | 教授 (2010年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : tkami@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1974年3月 神戸大学理学部物理学科卒業<br>1976年3月 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了  |
| 学位   | 博士 (学術、大阪市立大学大学院、2009年12月)  |
| 職歴   | 1977年4月 アイシン精機株式会社入社、住生活機器 (ベッド、枕、ミシン、温水洗浄便座など) の企画・研究開発に従事<br>2004年1月 同社 主席技師  |
| 研究分野 | 人間工学、特に人間中心設計 (HCD) を実現するための設計論。具体的には、ヒトの特性 (物理的寸法・感覚・運動能力・認知) に適合した機器・日用品の設計手法の研究、良質な睡眠のための寝具の研究など。  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① Kaminishizono T., Sakai S.: Preliminary Research to Decrease Splashing Mud During Walking, PROCEEDINGS of the HUMAN FACTORS and ERGONOMICS SOCIETY 56th ANNUAL MEETING, pp.1922-1926, 2012<br>② 上西園武良、細井広康、川原理恵、岡田明: 「家庭用ミシンの操作性に関する研究」、人間工学、pp.178-182、Vol.45、No.3、2009年<br>③ 上西園武良、岡田明: 「生活機器における感覚機能に対する設計解についての研究」、人間中心設計、pp.21-28、Vol.5、No.1、2009年<br>④ 上西園武良、葉袋賢一、岡田明: 「温水洗浄便座における洗浄強さ感に関する研究 洗浄強さ感を設計値に変換する方法について」、デザイン学研究、pp.83-88、Vol.55、No.2、2008年<br>⑤ 上西園武良、岡田明、池浦良淳: 「枕の開発における効率的な人間中心設計の方法 寝返り性能を設計値に変換する方法について」、デザイン学研究、pp.29-34、Vol.54、No.5、2008年<br>⑥ 村田康弘、池浦良淳、上西園武良、内藤公孝、和阪学弘、安達優、水谷一樹、澤井秀樹: 「枕上における頭部の寝返り抵抗トルクの解析」、機械学会論文集C編、pp.1539-1545、Vol.74、No.742、2008年<br>⑦ Kaminishizono T., Okada A.: Research concerning human-centred design; applicability to a household sewing machine, Related papers; Posters, 16th World Congress on Ergonomics, 2006<br>⑧ 上西園武良、森井達弥、木村禎祐、折居直純: 「快適睡眠寢室の開発 光環境による目覚めの最適化」、人間生活工学、pp.25-29、Vol.7、No.3、2006年 |
| 所属学会 | 日本人間工学会 (JES)、米国人間工学会 (HFES)、日本時計生物学会、人間中心設計推進機構  |
| その他  | JES (日本人間工学会) 認定人間工学専門家   |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | キシノ キヨタカ<br>岸野 清孝 KISHINO Kiyotaka   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1949年4月20日生  |
| 職名   | 教授 (2004年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : kishino@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1972年 京都工芸繊維大学工芸学部生産機械工学科卒業<br>1974年 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科生産機械工学専攻修士課程終了   |
| 学位   | 博士 (工学、京都大学、2004年3月)   |
| 職歴   | 1974年 株式会社日立製作所システム技術本部入社<br>1998年 株式会社日立製作所システム事業部ロジスティクスシステム部長<br>2002年 株式会社日立製作所システム事業部産業・流通システム本部長   |
| 研究分野 | 製造・流通分野においてビジネスプロセスを分析し、ITの活用により業務改革を行うシステムの計画に関する研究<br>① 製造・流通におけるSCM (Supply Chain Management) の研究<br>② 製造・流通におけるロジスティクスのIT化の研究<br>③ トラック輸送の高度交通システム・ITS (Intelligent Transportation System) の活用によるIT化の研究  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>① 「CIM生販統合の実現」 日本経済新聞社 (共著)、1990年<br>② 「人工生命」 同文書院 (共著)、2002年<br>③ 「流通と物流」 静岡学術出版、2007年<br>④ 「卒業論文の作り方 複合領域分野における経営学研究の進め方」 静岡学術出版 (共著)、2008年<br><b>論文</b><br>① 「On Stochastic Controllability for Nonlinear System」 IEEE AUTOMATIC CONTROL, 1974<br>② 「FMSの動向と適用技術」 無人化技術、1987年<br>③ 「VANの利用による資材業務の合理化・ペーパーレス化」 日立評論 1989年<br>④ 「生産・販売統合CIMシステム」 日立評論、1993年<br>⑤ 「生販統合化における情報処理の技術・製品・活用法」 ファクトリ・オートメーション、1994年<br>⑥ 「需要変動に対応した生産計画」 電気学会産業応用部門全国大会 1995年<br>⑦ 「21世紀ビジネス革新を支えるCALSの展開」 日立評論、1997年<br>⑧ 「プローブカーを利用した交通情報予測方式の検討」 情報処理学会論文誌、2002年<br>⑨ 「トラック運行管理ASPによる業務向け交通情報サービスの開発」 計測自動制御学会産業論文集、2003年<br>⑩ 「半導体製造クリーンルームへの冷熱供給システムのライフサイクルコストと環境負荷最小化」 計測自動制御学会論文集、2006年<br>⑪ 「サプライチェーンにおける総コスト最小となる輸配送計画の開発」 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2007年<br>⑫ 「共同配送と納入時間指定配送による環境負荷要因 (稼働台数・走行距離・走行時間) への影響の定量的評価」 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2010年<br>⑬ 「文系学部に設置された情報専門学科における情報システム分野の人材育成 (特集 大学教育の質的保証)」 情報処理、2012年 |
| 所属学会 | 情報システム制御学会、計測自動制御学会、交通工学研究会、情報システム学会   |
| その他  | 技術士 (経営工学部門、総合技術監理部門)  |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | クワハラ サトル<br>桑原 悟 KUWAHARA Satoru   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1956年7月15日生  |
| 職名   | 教授 (2008年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業<br>1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業<br>1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了<br>2008年3月 東京農工大学大学院博士後期課程単位取得満期退学   |
| 学位   | 工学修士 (東京農工大学、1983年3月)  |
| 職歴   | 1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任<br>2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ  |
| 研究分野 | 情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。  |
| 主要業績 | 論文<br>① 状態をもった内部表現でプログラムを保持するプログラミング教育環境の有効性の検討 共著、2007.9 電子情報通信学会 信学技報<br>② 初心者プログラミング環境に関する一考察 単著、FIT2007<br>③ e-japan / u-japanにおける一般利用者のための情報セキュリティ認知の社会環境に関する一考察 単著、2005.11 情報処理学会IS研究報告 情報処理学会<br>④ ビジネスアプリケーションのための新しいアクセス管理の視点 単著、2005.3 新潟国際情報大学紀要第8号 新潟国際情報大学<br>⑤ 「大学の役割とIT化に関する一考察」単著、2003.9 情報処理学会 IS研究報告 情報処理学会<br>⑥ 「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」単著、2003.3 新潟国際情報大学紀要第6号 新潟国際情報大学<br>⑦ 「Mobile phone as secure terminal for e-business」単著、2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA<br>⑧ 「EC・セキュリティソリューション」、2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他<br>⑨ 「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著、2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村<br>⑩ 『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実践』日本テクノセンター セミナー講演、1999年<br>⑪ 『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著、1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤 |
| 所属学会 | 情報処理学会<br>情報システム学会<br>日本リスク研究学会  |
| その他  | ・ Information Systems Audit and Control Association会員<br>・ CISA (Certified Information Systems Auditor)<br>・ CISM (Certified Information Security Manager)<br>・ 東京農工大学 非常勤講師 (2002 ～)<br>・ 情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員 (1992 ～ 2012)<br>・ Visiting Professor, University of Alberta (2007)   |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | コバヤシ ミツオ<br>小林 満男 KOBAYASHI Mitsuo   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1955年4月18日生  |
| 職名   | 教授(2011年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : mitsuo@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1976年3月 仙台電波工業高等専門学校電波通信学科卒業<br>1985年3月 東京理科大学工学部Ⅱ部電気工学科卒業<br>1998年3月 産能大学大学院経営情報学研究科修士課程修了<br>2006年3月 埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了  |
| 学位   | 博士(経済学、埼玉大学、2006年3月)   |
| 学歴   | 1976年4月 日本電信電話公社入社。自動車電話方式・デジタルマイクロ波方式・衛星通信システム等の開発・導入及び法人営業・SEに従事<br>2011年3月 NTT コミュニケーションズ株式会社を退職  |
| 研究分野 | (1) 企業、公共分野における情報通信システムの利活用の研究<br>(2) 情報通信システムの開発技法、評価方法の研究  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① Masayoshi TANAKA, Hiroshi SAKAMOTO, Mitsuo KOBAYASHI, Yukiharu KITAYAMA, "Unwanted Emissions of Multi-carrier Transmitter in Spurious Domain", 26th AIAA, ICSSC2008 [The Best Paper]<br>② 田中將義・坂本宏・小林満男・北山行治「マルチキャリア運用時の送信機からのスプリアス領域発射の検討」(信学技報)、2008年5月<br>③ 小林満男「デジタル・デバインド対策」竹野内情報工学研究所、2006年11月<br>④ 小林満男「法人営業現場における持続的競争優位の構築」埼玉大学経済科学論究、2005年3月<br>⑤ 小林満男「業界の常識の観点からみた競争戦略」竹野内情報工学研究所、2004年11月<br>⑥ 小林満男「アドホックP2P無線網のビジネスモデルの検討」竹野内情報工学研究所、2003年11月<br>⑦ 小林満男・根来龍之「規制された業界の業界変革モデルの提案」産能大学紀要、1998年9月<br>⑧ 浅井孝司・斉藤洋一・小林満男「4/5/6L-D1方式用無線端局及び監視制御装置」電電公社研実報Vol.31、No.7、p1319～p1332、1982年<br>⑨ 栗原功幸・小林満男・伊藤清敏「4/5/6L-D1方式用現場試験」電電公社研実報Vol.31、No.7、p1333～p1348、1982年 |
| 所属学会 | 日本経営学会、経営戦略学会、経営情報学会(理事:2005年度-2006年度)<br>電子情報通信学会、日本技術士会  |
| その他  | 技術士(電気電子)、情報処理技術者(特種)<br>無線従事者(第1級総合無線通信士・第1級陸上無線技術士)<br>電気主任技術者(第2種)、電気通信主任技術者(伝送交換・線路)<br>長野大学企業情報学部 非常勤講師(2008)<br>立教大学経営学部 兼任講師(2010)<br>明治大学(The Institute of Organizational Discourse, Strategy, and Change) 客員研究員(2007～)<br>東京理科大学理窓技術士会運営委員(2008～)<br>新潟市水道事業経営審議会委員(2011.10～)<br>財団法人自治体衛星通信機構理事(2012.4～)   |



氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴  
学位  
職歴  
研究分野

コンドウ ススム

近藤 進 KONDO Susumu

男

1949年3月5日生

教授 (2001年9月)

E-mail : kondo@nuis.ac.jp

1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業

博士 (工学、京都大学、1994年5月)

1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所  
光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子)  
および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)  
信越地域の情報通信

主要業績

論文

- ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LiNbO<sub>3</sub> thin film", Appl. Phys.Lett.26, p489 (1975)
- ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O<sub>3</sub> solid-solution thin film waveguide on LiTaO<sub>3</sub> substrate", J.Crystal Growth 46, p314 (1979)
- ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61, p8 (1983)
- ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989)
- ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25, p385 (1996)
- ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-Quantum-Well Modulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p1171 (2002)

特許

"Semiconductor optical device and fabrication method"

European Patent, No.01251610 Jan.28 (2006) 独、英、仏、伊

No.01286439 Apr.12 (2006) 独、英、仏、伊

United State Patent, No.07060518 Jan.13 (2006) 米

所属学会

電子情報通信学会

応用物理学会

その他

信越情報通信懇談会：新世代情報通信網委員会委員長





氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴  
学位  
職歴

シライ ケンジ

白井 健二 SHIRAI Kenji

男

1949年8月31日生

教授 (2009年4月)

E-mail : shirai@nuis.ac.jp

1973年3月 立命館大学工学部電気工学科卒

1975年3月 立命館大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程終了

博士 (工学、立命館大学、2000年9月)

1975年4月 立石技術サービス株式会社 (現オムロンフィールドエンジニアリング(株)) 入社、阪神高速道路公団の交通管制システムに従事。

1980年9月 株式会社CSK入社、東京大学地震観測システムの開発に従事。

1982年4月 株式会社エリック入社、1982年、システム開発部長、デジタル同期端局制御システムの開発に従事、NTT電話局業務システムに従事、1991年6月、取締役就任。

1992年9月 株式会社情報工房設立、代表取締役社長に就任。ネットワークインフラ系ソフトウェアの販売・保守・カスタマイズ事業を展開。

2008年3月 協和テクノロジーズ株式会社に入社、支配人、マーケット開発部配属。

研究分野  
主要業績

統計物理および数理ファイナンスを応用したシステム解析

**論文 (査読有)**

- ① K.Shirai,Y.Amano,etc : Power-Law Distribution of Rate-of-Return Deviation and Evaluation of cash Flow in a Control Equipment Manufacturing Company : International Journal of Innovative Computing,Information and Control(IJICIC) March2013 Vol.9,No.3,pp.1005-1112
- ② 白井・天野:「製造リードタイムに関する数理解析考察 — 生産系のデッドラインスケジューリング —」電気学会論文誌 (電子・情報・システム部門誌)、Vol132、No.12、pp.1973-1981、2012年12月
- ③ 白井・天野:「情報ネットワークサーバのキューイングモデル—ファイナンシャルアプローチ」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第15号、PP.89-102、2012年4月
- ④ 白井・天野:「情報ネットワークにおけるサーバの幅輻回復率に関する一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第14号、PP.71-82、2011年4月
- ⑤ 白井・天野:「力学系エントロピーを活用した広域情報系内サーバ系安定評価」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第13号、PP.103-113、2010年4月

**学位論文**

「トランザクション消滅を考慮した待ち行列系の確率的最適制御に関する研究」立命館大学、2000年9月

所属学会  
その他

電気学会

電気学会 システム・制御・情報部門の論文委員会委員 (2003年8月～)





|      |  |
|------|--|
| 氏名   | タカギ ヨシカズ<br>高木 義和 TAKAGI Yoshikazu   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1949年10月20日生   |
| 職名   | 教授 (1996年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : takagi@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1973年 京都大学農学部食品工学科卒業   |
| 学位   | 農学博士 (京都大学、1983年3月)  |
| 職歴   | 1973年～ 1996年 日本たばこ産業株式会社 (入社時は日本専売公社)<br>葉たばこ香嗅味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する科学情報の管理業務に従事。  |
| 研究分野 | 情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源ととらえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情報管理、情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。   |
| 主要業績 | <p><b>論文</b></p> <p>①「新潟国際情報大学卒論データベースの概要と論文表題の形態素解析による卒業論文の構成要素に関する考察」単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.16、135-150、2013.4</p> <p>②「避難者情報の公開と個人情報保護～東日本大震災避難者名簿のデータベース化の試み～」単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.15、103-111、2012.4</p> <p>③「情報検索」単著、新潟国際情報大学、2011.3</p> <p>④「日本と北米における情報サービス産業の構造比較」単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.10、119-130、2007.5</p> <p>⑤「日本と北米における情報サービス産業の構造比較 (2) ～新潟における情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単著、新潟国際情報大学、2007.4</p> <p>⑥「日本と北米における情報サービス産業の構造比較～カナダ・アルバータ州立大学Extension学部において倫理委員会の承認を受け実施したアルバータ州エドモントンにおける情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単著、新潟国際情報大学、2006.9</p> <p>⑦「概説情報論～情報とは何か～第12回～第1回」単著、2003.10～2002.12 知のWebマガジンen、(10) 2003～(12) 2002、<br/>(<a href="http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm">http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm</a>～<br/><a href="http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm">http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm</a>)</p> <p>⑧「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育としての情報検索」単著、2002.3<br/>新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002</p> <p>⑨「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19<br/>新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999</p> <p>⑩「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22<br/>第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997</p> <p>⑪「インターネットにおける情報検索」(情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996)</p> <p>⑫「水府葉たばこの香気成分に関する研究」(京都大学農学部博士論文 1982)<br/>その他の文献 (<a href="http://www.nuis.ac.jp/takagi/">http://www.nuis.ac.jp/takagi/</a>を参照)</p> |
| 所属学会 | 情報システム学会<br>三田図書館情報学会<br>情報処理学会<br>日本栄養・食糧学会<br>日本分類学会   |
| その他  | (財) バテルメモリアル研究所 客員研究員 (1987)<br>情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員 (2001.4～2005.3)<br>情報システム学会理事 (2005.4～)<br>アルバータ州立大学 Visiting professor (2005.4～2005.9)   |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | タカハシ ショウヘイ<br>高橋 正平 TAKAHASHI Shohei   |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1945年9月11日生  |
| 職名   | 特任教授（2012年4月）  |
| 連絡方法 | staka@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1968年3月 新潟大学人文学部人文学科卒業<br>1971年3月 東北大学大学院文学研究科修士課程修了   |
| 学位   | 修士（英文学、東北大学、1971年3月）   |
| 学歴   | 1971年4月 東北薬科大学講師<br>1982年4月 新潟大学教養部助教授<br>1994年4月 新潟大学法学部教授<br>2002年4月 新潟大学人文学部教授<br>2011年3月 新潟大学人文学部教授を定年退職<br>2011年4月 新潟大学人文社会・教育学系フェロー  |
| 研究分野 | 十七世紀イギリス文学   |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>① 高橋正平・高橋康浩『イギリスとアメリカ植民—「黄金」と「キリスト教」』（新潟日報事業社、2008年3月）<br>② 高橋正平『ジェズイットとマキアヴェリ』（三恵社、2010年3月）<br>③ 高橋正平『ヴァージニア植民研究序史』（三恵社、2011年3月）<br>④ 高橋正平『火薬陰謀事件と説教』（三恵社、2012年3月）<br><b>論文</b><br>① 高橋正平「アンドルーズとピューリタンの火薬陰謀事件説教」（新潟大学大学院現代社会文化研究科、2012年3月）<br>② 高橋正平「Anthony BurgesとCharles Herleの火薬陰謀事件説教」（新潟大学大学院現代社会文化研究科、2011年3月）<br>③ 高橋正平「イギリス国教会の説教—ウィリアム・ロードと「詩編」」（人文科学研究、2010年3月）<br>④ 高橋正平「ジェズイットのマキアヴェリ批判」（新潟大学言語文化研究、2009年5月）<br>⑤ 高橋正平「オスカー・ワイルドとアメリカ」（人文科学研究、2008年5月）<br>⑥ 高橋正平「ヴァージニア植民とは何だったのか—公式文書から見るアメリカ植民」（人文科学研究、2007年10月） |
| 所属学会 | 日本英文学会、十七世紀英文学会、英米学会、東北英文学会、新潟大学英文学会   |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | タニモト カズアキ<br>谷本 和明 TANIMOTO Kazuaki  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1956年7月15日生  |
| 職名   | 教授 (2013年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : tanimoto@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1979年 創価大学 経済学部卒業<br>1984年 UCLA (University of California, Los Angeles)<br>Anderson School of Management (経営大学院) 経営科学専攻 修士課程修了<br>1989年 UCLA (University of California, Los Angeles)<br>Anderson School of Management (経営大学院) 経営科学専攻 博士課程修了  |
| 学位   | Ph.D. (経営学博士) UCLA、1989年9月、M.S. (理学修士) UCLA、1984年3月  |
| 学職   | 1984年 UCLA Anderson School of Management 助手<br>1989年 株式会社国際リサーチアカデミーコンサルタント、パートナー、COO<br>2003年 英国国立ウェールズ大学 大学院MBAプログラム 教授<br>2010年 長崎総合科学大学 情報学部経営情報学科 教授<br>同上 大学院工学研究科 博士課程 総合システム工学専攻 MO合、DO合教授<br>同上 大学院新技術創成研究所 教授 兼任<br>同上 産官学連携センター 教授 兼任   |
| 研究分野 | 逐次的経営戦略のための標準化された経営モデル、戦略的意思決定モデル、スマートコミュニティの構築と評価モデル、効果的な起業支援   |
| 主要業績 | ① Job Search with Two Attributes: Partial and Equilibrium Analyses, 博士学位論文、1989年3月UCLA<br>② Job Search with Two Attributes: Wage Rate and Job Length, Western Management Science Institute, No.369. 1989 UCLA<br>③ Job Search with Two Attributes: An Equilibrium Analysis, Western Management Science Institute, No.370. 1989 UCLA<br>④ 決定システムのアルゴリズム—期待効用理論とその実質的活用法—、企業会計、Vol.34、No.5、1991年<br>⑤ 不完全情報下の意思決定 — 探索理論と均衡分析に関する主要研究について —、経営情報論集、Vol.1、No.2、1991年<br>⑥ 不完全情報と決定システム、経営行動、Vol.7、No.1、1992年<br>⑦ M&Aにおける比較評価投資モデルについて—グローバルに観察・ローカルに評価—、経営学会論集、第64集 pp255-230、1994年<br>⑧ 近年のDSSとSISの研究について—事例研究を中心として—、経営行動学会誌、第4号、1995年<br>⑨ 近年の情報システムと経営支援システムについて、AIR、Vo.l.7、No.1、1997年<br>⑩ General Model for Employment Policy — Relaxation on Attribute Condition of Search Theory —、AIR、Vo.l.8、No.2、2008年<br>⑪ 戦略的意思決定理論のサーベイとシステムの構築、長崎総合科学大学、大学院紀要 第51巻、2011年<br>⑫ 逐次的経営戦略のための標準化された経営モデルの構築 — 総体的経営の手法としてのマクロ経営モデルの研究 —、経営戦略研究、No.10、2011年<br>⑬ 東長崎スマートコミュニティへの提言、長崎総合科学大学、新技術創成研究所所報「創見創新」第7号、2012年 |
| 所属学会 | TIMS (アメリカOR&経営科学学会)、経営戦略学会、日本経営工学会  |



氏名 槻木 公一 TSUKIGI Kouichi  
 性別 男  
 生年月日 1946年10月9日生  
 職名 教授（1996年4月）  
 連絡方法 E-mail : tsukigi@nuis.ac.jp  
 学歴 1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了  
 学位 航空学修士（東京大学、1971年3月）  
 職歴 1993年～1996年（財）鉄道総合技術研究所SI 事業推進部長  
 研究分野 情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互補完して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、利用者の様々な立場を重視するデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

**主要業績**

**著書**  
 ①『情報システムの分析と設計』培風館（共訳）、1995年

**論文**  
 ①「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」（共著）  
 情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム、2001年  
 ②「旅行者中心の旅行支援システムに関する一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号、2005年  
 ③「文芸作品のWebユーザービリティ向上のための情報デザイン」（共著）  
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第9号、2006年  
 ④「手のひらサイズの情報システム設計方法の一考案」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第10号、2007年  
 ⑤「オブジェクト指向による情報システム設計演習における開発支援環境」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第16号、2013年

**フィールドワーク等**  
 特許（1905460）指定券発行装置（共案）、1987年  
 特許（1444294）高速出札システム（共案）、1988年  
 特許（1542849）端末ファイルの保守方式（共案）、1990年

**所属学会その他**  
 情報処理学会、人工知能学会、情報システム学会  
 学会活動：情報処理学会理事（1995.5～1997.5）  
 技術士（情報処理部門20500）



氏性  
生年  
職年月  
連日  
学絡名  
学方  
学歴  
職位  
歴

ニシヤマ シゲル

西山 茂 NISHIYAMA Shigeru  
男

1950年7月12日生

教授 (2010年4月)

E-mail : nishiyama@nuis.ac.jp

1975年 電気通信大学大学院電波通信専攻科修了

工学修士

1975年～1980年 日本電信電話公社 (現NTT) 電気通信研究所にて予測符号器の研究、加入者系の研究に従事

1980年～2002年 NTT研究所及び事業部門で、日本語コンパイラ、ソフトウェア開発環境、ファンクションポイント法を含むソフトウェアメトリクス、ソフトウェア見積法、Web系通信システム (会議システム)、WBT、3D、人事評価システム、電子図書館、指紋認証システムの各研究開発に従事。さらに、ISO9000運用、社内LAN構築運用にも従事

1987年～1988年 NTT研究所在勤中米ボストンに滞在し、米社社員とともにソフトウェア開発環境開発業務に従事

1991年、1992年、1993年、各10月～3月 静岡大学工学部非常勤講師 (ネットワーク特論)

2002～2006年 NTTアドバンステクノロジー(株)にて技術営業、各種ソフトウェア開発のPM、情報セキュリティ、ISO9000、プロジェクト品質管理等の業務を推進  
2006年7月～2010年3月 新潟市政策企画部・IT政策監として新潟市役所の電子自治体、最適化、品質管理に関する業務に従事

研究分野

①ソフトウェアメトリクス及びソフトウェア開発管理に関する研究

②ネットワーク応用システムに関する研究

主要業績

著書

①「ソフトウェア開発の定量化手法」、共立出版、1993年 共訳

②「ソフトウェア病理学」、共立出版、1995年 共訳

③「ソフトウェアの成功と失敗」、共立出版、1997年 共訳

④「ソフトウェアインスペクション」、共立出版、1999年 共訳

論文

①「ベンダ製品を用いた通信サービスシステムの信頼性評価手法」、電子情報通信学会論文誌 B Vol. J87-B、2004年1月 (共著)

②「ネットワークを利用したグループ活動支援技術の動向」NTT R&D Vol.48、No.6、1999年 (共著)

③「ファンクションポイント法の有効性と適用性」、第14回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1994年9月 (共著)

④「ファンクションポイント法の効率的適用に関する一考察」、第15回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1995年9月 (共著)

⑤「ファンクションポイント法の計測精度に関する一考察」、第16回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1996年9月 (共著)

⑥「The validity and applicability of function point analysis」, EFPUG, Fourth European Conference on Software Quality, 1994 (単著)

⑦「Validation of Application Results of COSMIC-FFP to Switching Systems」, ASMA, Australian Conference on Software Metrics (ACOSM), 2003 (共著)

⑧「ソフトウェア機能規模測定法最新動向」、SEC journal No.5、IPA、2006年 (単著)

⑨「電子会議システム：ニーズの分析と機能性に関する一考察」、電子情報通信学会 オフィスシステム/画像工学研究会、OSF99-30、1999年 (共著)

⑩自治体情報システム全体最適化に係る検討、FIT2009、2009年9月 (共著)

特許

①特許第1236463号 局内伝送路監視方式 (共同出願)

②特許第12317533号 デジタル通信の局内信号方式 (共同出願)

③特願平11-327357 インタネットを利用した物品受け取り方法 (単独出願)

所属学会  
その他

情報処理学会、情報システム学会、電子情報通信学会、IEEE

日本ファンクションポイントユーザ会会長 (1993年～2006年)、名誉会長 (2011年～)

情報処理学会規格調査会SC7専門委員会幹事 (2000年～2006年)、同SC7専門委員会WG12小委員会主査 (1999年～2006年)

ISO/IEC JTC1/SC7/W12 Expert (1993年～2006年)、同Project Editor (ISO/IEC 14143-6 Functional Size Measurement Part 6担当) (2004年～2006年)

日本規格協会ソフトウェア生産管理委員会(機能規模測定)主査 (2001～2006年)

日本科学技術連盟SPC WG6幹事 (2004年～2006年)





|      |   |
|------|---|
| 氏名   | フジセ タケヒコ<br>藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1962年4月22日生   |
| 職名   | 教授 (2002年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : fujise@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業<br>1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了<br>1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了   |
| 学位   | 体育学修士 (東海大学、1987年3月)<br>博士 (医学) (東海大学、1992年9月)  |
| 職歴   | 1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師<br>1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師<br>1998年4月～新潟国際情報大学助教授<br>2002年4月～新潟国際情報大学教授  |
| 研究分野 | ① 運動生理学 (身体機能に及ぼす高酸素吸入の効果)<br>② 肥満学 (隠れ肥満及び痩せ願望の実態、ボディイメージの歪みについて)<br>③ トレーニング科学 (ウエイトトレーニング、高酸素トレーニングの効果)  |
| 主要業績 | <b>著書</b><br>① 『筋力をつくるトレーニング』長澤純一編著「体力とはなにか」、NAP、190-206、2007年<br><b>論文</b><br>① 藤瀬武彦・他「一般青年男女におけるベンチプレスの1RM相対重量での最高反復回数」トレーニング科学、第21巻第2号、225～238、2009年<br>② 藤瀬武彦・他「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究、Vol.21、35～45、2003年<br>③ 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学、第52巻第4号、421～432、2003年<br>④ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年<br>⑤ 藤瀬武彦・他「持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年<br>⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年<br>⑦ 藤瀬武彦・他「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年<br>⑧ Fujise, T., Terao, T., and Nakano, S. 「Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992<br>⑨ 藤瀬武彦・他「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年<br>⑩ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「短時間最大運動時の酸素摂取が作業成績に及ぼす影響」体育学研究、第35巻第2号、133～142、1990年<br>⑪ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「血中乳酸値および酸素負荷量による無酸素的運動能力評価法の検討」体力科学、第38巻第3号、85～94、1989年 |
| 所属学会 | 日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会・日本肥満学会・日本トレーニング科学会  |
| その他  | 新潟県パワーリフティング協会理事・北信越学生陸上競技連盟評議員   |





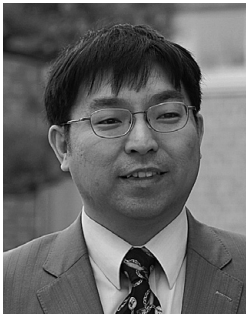
|      |   |
|------|---|
| 氏名   | フジタ ハルヒロ<br>藤田 晴啓 FUJITA Haruhiro   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1955年12月10日生  |
| 職名   | 教授 (2012年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : fujita@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1981年3月 宮崎大学農学部草地学科卒業<br>1983年3月 九州大学大学院農学研究科畜産学専攻修士課程修了<br>1989年3月 キーンズランド大学農学研究科博士研究課程修了  |
| 学位   | Doctor of Philosophy (The University of Queensland, 1989,8)   |
| 職歴   | 1989年4月 農林水産省草地試験場研究員任官、土地情報システム研究<br>1992年3月 国際農林水産業研究センター主任研究官、乾燥地保全研究<br>1992年3月 Int.Cent.Agric.Res. in Dry Areas, Senior Scientist (併任)<br>(国際乾燥地農業研究センター上席研究者 乾燥地情報システム)<br>1995年10月 農林水産省四国農業試験場企画連絡室、防災システム研究<br>2000年7月 日本国際協力システム業務第一部<br>2003年4月 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授 (地理情報システム)  |
| 研究分野 | (1) 地理情報システム、自律分散GISによる歴史・観光・考古データベース<br>(2) 社会情報システム、GHG排出量見積システムの社会実装   |
| 主要業績 | ① Fujita,Okuhara,Tsuda and Tsubaki A participatory web-based environmental load estimation and labeling system, Proceeding of the 2012 International Conference in Green and Ubiquitous Technology, 7-8 July 2012, Bandung Indonesia,114-117 (an IEEE affiliated conference)<br>② 藤田晴啓・森洋久 GLOBALBASEアーキテクチャと歴史地図ベースの共有『GISで復原する景観・環境・地域構造』第1編、第1部HGISアーキテクチャの開発 第3章 HGIS研究推進委員会編 勉誠出版 25-37 2012年3月<br>③ 藤田晴啓 地理情報による空間認知効果に関する一考察 一空中写真等地理メディア媒体が東日本大震災被災状況把握および位置認識に与える影響 一 観光学研究 第11号 11-24 2012年3月 東洋大学国際地域学部<br>④ Fujita,Okuhara,Ishii,Cahiyadi,Soon,Yang Carbon footprint modeling from raw material supply, production, consumption and waste generation 6th Int. Conf.Modeling Decisions for Artificial Intelligence, 2009,177-186<br>⑤ 藤田、河野、狭川、森 GLOBALBASEによる考古歴史民俗資料のマップベース化、情報処理学会研究報告、CH83-5、2009年7月 |
| 所属学会 | 地理情報システム学会、SIG自律分散アーキテクチャ代表 (2004年度—現在)<br>Int. Soc. for Photogrammetry & Remote Sensing (an affiliated member)<br>Climate Technology Initiatives (an affiliated member)  |
| その他  | An award of the Best Scientific Achievement and Communication Development given by International Society for Photogrammetry & Remote Sensing, Technical Commission VI – Education and Communication – in 1999<br>集落能楽継承・能舞台活用による佐渡活性化 平成25～27年度事業代表<br>情報・システム研究機構・新領域融合研究プロジェクト共同研究員<br>新潟食の革新者機構ボードメンバー<br>にいがたGIS推進協議会アドバイザー<br>にいがたデジタルコンテンツ推進協議会幹事   |



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | イシイ タダオ<br>石井 忠夫 ISHII Tadao  |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1955年11月3日生   |
| 職名   | 准教授 (2001年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : ishii@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1980年 山形大学工学部電子工学科卒業<br>2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了  |
| 学位   | 工学修士 (山形大学、1982年3月)<br>博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)  |
| 職歴   | 1982年 日立製作所 入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。<br>2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。  |
| 研究分野 | 1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究<br>2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究<br>3) 量子計算の体系の研究  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① 「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic, University of Lodz, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.<br>② 「A note on varieties of PCI-algebras with EDPC」, Bulletin of the Section of Logic, University of Lodz, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.<br>③ 「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22-24.<br>④ 「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999.<br>⑤ 「An Extension of Martin-Lof's Type Theory with an Evolution Relation」, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12, Japan 2001, pp.33-37.<br>⑥ 「A formal theory of the calculus of indication」, Bulletin of NUIS, Vol.9, 2006.<br>⑦ 「ソフトウェア仕様の差分について」、Bulletin of NUIS, Vol.10, 2007.<br>⑧ 「ソフトウェア仕様とプログラムの導出」、Bulletin of NUIS Vol.12, 2009<br>⑨ 「構成的型理論に基づいた定理証明プログラムの試作」、Journal of NUIS, Vol.13, 2010. |
| 所属学会 | 日本数学会<br>日本ソフトウェア科学会<br>情報処理学会<br>情報システム学会  |



|      |  |
|------|--|
| 氏名   | イシカワ ヒロシ<br>石川 洋 ISHIKAWA Hiroshi  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1963年6月24日生  |
| 職名   | 准教授 (2008年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : ishihiro@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1986年 静岡大学理学部数学科卒業<br>1989年 金沢大学大学院理学研究科修了<br>1998年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了   |
| 学位   | 博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、1998年3月)  |
| 職歴   | 1989年4月 株式会社CSK総合研究所入社、エキスパートシステム開発に従事<br>1992年9月 株式会社CSKへ転籍、同年12月退社<br>1998年4月 福山大学工学部情報処理工学科 助手<br>2004年4月 同 専任講師<br>2007年4月 福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 専任講師 (配置換え)  |
| 研究分野 | ①並行自己反映計算の宣言的記述に関する研究<br>②形式仕様言語による記述の自動検証に関する研究   |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① An Example for Concurrent Reflective Computations in Rewriting Logic, First IFIP Workshop on Formal Methods for Open Object-based Distributed Systems, pp.178-185 (1996)<br>② On the Semantics of GAEA, Proceedings of FLOP, pp.123-142 (1998)<br>③ An Operational Semantics of GAEA in CafeOBJ, Proceedings of OBJ/CafeOBJ/Maude Workshop at FM' 99, pp.213-225 (1999)<br>④ Z仕様から代数仕様への自動変換に関する考察、第20回ソフトウェアシンポジウム論文集、pp.31-38 (2000)<br>⑤ A Proposal on a Model of an Autonomous Agent using the Meta-Level Architecture, Proceedings of KIMAS 2003, pp.83-87 (2003)<br>⑥ A Specification Construction Unit-based editor for Z, Proceedings of 29th COMPSAC Workshops and Fast Abstract, pp.5-6 (2005)<br>⑦ On a GUI-based editor for Z Specifications and its Applications, Proceedings of SERP' 06, Volume II, pp.636-642 (2006)<br>⑧ An Object-Oriented Design for Origami Activities in UML, Proceedings of ITC-CSCC 2007, Volume 1, pp.33-34 (2007)<br>⑨ An Approach for Refactoring using ESC/Java2 -A Simple Case Study-, NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp.61-72 (2009)<br>⑩ A Formal Specification for Routing Information Protocol with VDM-SL, Proceedings of ITC-CSCC 2011.(CD-ROM), 4pages (2011)<br>⑪ A Tentative Approach to Program Refactoring with UML Editor Plug-in for Eclipse, Proceedings of ITC-CSCC 2012 (CD-ROM) , 4pages (2012) |
| 所属学会 | 日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本数式処理学会、情報システム学会<br>ACM, IEEE  |



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | コミヤマ サトシ<br>小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi   |
| 性別   | 男   |
| 生年月日 | 1969年5月3日生  |
| 職名   | 准教授 (2004年4月)   |
| 連絡方法 | E-mail : komiyama@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1994年 中央大学文学部社会学科卒業<br>1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了<br>1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退   |
| 学位   | 社会学修士 (中央大学、1996年3月)  |
| 職歴   | 1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師  |
| 研究分野 | 「職業における“楽しみ”の階層研究」を行っております。どのような仕事もつらい面、楽しい面がありますが、楽しい面が一部の人々に偏りがちになっているのではないかと、楽しい面を多くの人々に配分するためにはどのようにしたら良いかと、研究しております。<br>学生とともに地域の町おこしに取り組みながら、統計的な質問紙調査、少数事例の聞き取り調査などを組み合わせ、取り組んでおります。その他、以下の主要業績のようなテーマを扱っております。  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>①「モータリゼーションが発達した地方都市における消費者の店舗選択要因の解明」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第11号、pp.31-39 2008年)<br>②「コンピュータ活用の差異がE-Learningの評価に及ぼす影響」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第10号、pp.99-106 2007年)<br>③「階層線形モデルによる“地域不公平感”の分析」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号、pp.161-178 2004年)<br>④「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」(M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be,Minsitry of Education,Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report,09410050,2000 pp.87-100)<br>⑤「三条・燕市製造業者間のデジタルデバイド」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号、pp.103-121 2003年)<br>⑥「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」(紀要 中央大学文学部社会学科 第10号、pp.199-213 2000年)<br>⑦「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」(社会科学研究所年報 第3号、pp.67-79 1999年)<br>⑧「日本の公正地図」(宮野勝 [編]『公平感と社会階層』 科研報告書、pp.195-214 1998年)<br>⑨「新聞における公正」(宮野勝 [編]『日本人の公正観』 中央大学社会科学研究所報告書 第17号、pp.193-202 1996年)<br>⑩「公正観の深層理解:自由面接データの分析」(宮野勝 [編]『社会的公正の研究:理論実証・応用』 科研報告書、pp.154-165 1996年) |
| 所属学会 | 数理社会学会<br>日本社会学会<br>関東社会学会<br>日本行動計量学会  |



氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴

ササキ トウコ  
佐々木 桐子 SASAKI Toko

女  
1972年2月22日生

准教授（2008年4月）

E-mail : tohko@nuis.ac.jp

1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業

1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了

1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生

2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学

学位  
職歴  
研究分野

経営学修士（東洋大学、1996年3月）

2005年～ 新潟大学経済学部非常勤講師

生産システム、ロジスティクスシステム、および道路交通システムなどを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。

また、動機付け教育を目的として、シミュレーション技術を活用した学習支援システムの開発および運用、さらには出席管理を効率的、効果的に行う授業支援システムの開発に携わっている。

主要業績

論文

- ①「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」（単著）『東洋大学大学院紀要』第32集、pp.111-137、1995.
- ②「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」（単著）『オフィス・オートメーション』Vol.18、No.4-2、pp.99-102、1997.
- ③「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」（単著）『オフィス・オートメーション』Vol.18、No.4-2、pp.133-136、1998.
- ④「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」（単著）『オフィス・オートメーション』Vol.20、No.3、pp.76-82、2000.
- ⑤“A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.
- ⑥「動機付け教育を目的としたe-Learningコンテンツの開発」（単著）『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号、pp.131-138、2006.
- ⑦「高等学校における教科「情報」に関する実態調査および大学入学時の情報リテラシー能力の変化」（単著）『オフィス・オートメーション』Vol.27、No.2、pp.69-75、2006.
- ⑧「シミュレーション演習におけるe-Learningおよび協調学習の適用」（単著）『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号、pp.107-112、2007.
- ⑨「授業支援システム開発 ～出席管理のすすめ～」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第12号、pp.151-162、2009.
- ⑩「指静脈認証による出席管理システムの開発」（単著）『日本情報経営学会学会誌』vol.29、No.4、pp.49-55、2009.
- ⑪「バイOMETRICSのユーザー受容性に関する諸課題～指静脈認証による出席管理システムの事例～」(単著)『バイオメディカル・ファジィシステム学会誌』Vol.12、No.1、pp.79-86、2010

所属学会

日本情報経営学会（旧オフィス・オートメーション学会）

日本経営システム学会

情報システム学会

バイオメディカル・ファジィ・システム学会

その他

社団法人私立大学情報教育協会経営工学教育IT活用研究委員会委員(2005.7～)

新潟市個人情報保護審議会委員（2007.4～2011.3）





|      |  |
|------|--|
| 氏名   | チカヤマ エイスケ<br>近山 英輔 CHIKAYAMA Eisuke  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1971年4月16日生  |
| 職名   | 准教授 (2011年9月)  |
| 連絡方法 | E-mail : chikaya@nuis.ac.jp  |
| 学歴   | 1993年3月 長岡工業高等専門学校土木工学科卒業<br>1995年3月 長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程卒業<br>1997年3月 長岡技術科学大学大学院工学研究科生物機能工学専攻修士課程修了   |
| 学位   | 博士 (工学、長岡技術科学大学、2010年6月)   |
| 学歴   | 2000年5月～2005年4月 (特) 理化学研究所ゲノム科学総合研究センターテクニカルスタッフ<br>2004年2月～2004年3月 東京農工大学工学部非常勤講師を兼任<br>2005年5月～2011年8月 (独) 理化学研究所植物科学研究センター一技師<br>2010年7月～2011年8月 横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科大学院客員研究員を兼任<br>2011年1月～2011年8月 (独) 理化学研究所次世代計算機科学研究開発プログラムを兼任  |
| 研究分野 | (1) 生命システムと情報システム (2) 高性能計算 (HPC)  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① Keiko Okushita, Eisuke Chikayama et al, "Solubilization Mechanism and Characterization of the Structural Change of Bacterial Cellulose in Regenerated States through Ionic Liquid Treatment," <i>Biomacromolecules</i> 13,1323-1330 (2012)<br>② Yoshiyuki Ogata, Eisuke Chikayama et al, "ECOMICS : A Web-Based Toolkit for Investigating the Biomolecular Web in Ecosystems, Using a Trans-omics Approach," <i>PLoS ONE</i> 7 ; e30263 (2012)<br>③ Yasuyo Sekiyama, Eisuke Chikayama et al., "Evaluation of a Semipolar Solvent System as a Step Toward Heteronuclear Multidimensional NMR-based Metabolomics for <sup>13</sup> C-Labeled Bacteria, Plants, and Animals", <i>Analytical Chemistry</i> 83, 719-726 (2011)<br>④ Eisuke Chikayama et al., "Mathematical Model for Empirically Optimizing Large Scale Production of Soluble Protein Domains", <i>BMC Bioinformatics</i> 11, 113 (2010)<br>⑤ Eisuke Chikayama et al., "Statistical Indices for Simultaneous Large-Scale Metabolite Detections for a Single NMR Spectrum", <i>Analytical Chemistry</i> , 82, 1653-1658 (2010)<br>⑥ Shinji Fukuda, Yumiko Nakanishi, Eisuke Chikayama et al., "Evaluation and Characterization of Bacterial Metabolic Dynamics with a Novel Profiling Technique, Real-Time Metabolotyping", <i>PLoS ONE</i> 4: e4893 (2009) |
| 所属学会 | 日本生物物理学会、バイオスーパーコンピューティング研究会、日本核磁気共鳴学会   |
| その他  | 2011年9月～ (独) 理化学研究所客員研究員   |





|      |  |
|------|--|
| 氏名   | ヤマシタ イサオ<br>山下 功 YAMASHITA Isao  |
| 性別   | 男  |
| 生年月日 | 1972年12月14日生   |
| 職名   | 准教授（2013年4月）   |
| 連絡方法 | E-mail : iyamashi@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業<br>1998年3月 横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了<br>2009年3月 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士課程後期単位取得満期退学   |
| 学位   | 修士（経営学）（横浜国立大学、1998年3月）  |
| 職歴   | 1998年3月～2003年4月 ミツミ電機株式会社 経理部<br>2007年9月 新潟国際情報大学専任講師  |
| 研究分野 | 管理会計、原価計算。複数企業間での連携における戦略的原価管理の研究。   |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>①「大学初年次教育における作文の試行事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部紀要』、第16号（2013年4月）、pp97-103.<br>②「無料公衆無線LANの現状：収益・費用構造を中心に」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第15号（2012年4月）、pp.81-87.<br>③「授業評価アンケートシステムの費用対効果：新潟国際情報大学における導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第14号（2011年4月）、pp.83-91.<br>④「マークシートによる授業支援システムの費用対効果：新潟国際情報大学における試行導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第13号（2010年4月）、pp.115-123.<br>⑤「企業間連携における原価管理 組立型総合電子部品メーカーの事例研究」、『財務管理研究』、第16号（2005年12月）、pp.101-110.<br>⑥「企業間原価管理の事例研究 組立型総合電子部品メーカーの事例」、『横浜国際社会科学研究所』、第9巻第6号（2005年2月）、pp.95-112.<br>⑦『電力事業における原価管理』、横浜国立大学大学院経営学研究科修士論文、1998年. |
| 所属学会 | 日本原価計算研究学会<br>日本管理会計学会<br>日本財務管理学会<br>日本会計研究学会   |
| その他  | 新潟市西区自治協議会委員（2009年4月～2011年3月）<br>新潟県下越地区吹奏楽連盟代議員（2010年度）   |



|      |   |
|------|---|
| 氏名   | イムラ トモコ<br>伊村 知子 IMURA Tomoko   |
| 性別   | 女   |
| 生年月日 | 1979年2月6日生  |
| 職名   | 講師 (2012年4月)  |
| 連絡方法 | E-mail : imura@nuis.ac.jp   |
| 学歴   | 2001年3月 関西学院大学文学部心理学科卒業<br>2003年3月 関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程前期課程修了<br>2006年3月 関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程後期課程修了   |
| 学位   | 博士 (心理学) (2006年3月、関西学院大学)   |
| 職歴   | 2007年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)<br>2009年5月 京都大学霊長類研究所比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 研究部門、特定助教<br>2011年10月 京都大学霊長類研究所思考言語分野、特定助教  |
| 研究分野 | (1) 空間認知能力の比較認知発達<br>(2) 食物質感の認知  |
| 主要業績 | <b>論文</b><br>① Imura, T., & Tomonaga, M. (2003) . Perception of depth from shading in infant chimpanzees (Pan troglodytes) . Animal Cognition, 6, 253-258.<br>② Imura, T., Yamaguchi, M.K., Kanazawa, S., Shirai, N., Otsuka, Y., Tomonaga, M., & Yagi, A. (2006) . Perception of motion trajectory of object from the moving cast shadow in infants. Vision Research, 46, 652-657.<br>③ Imura, T., Tomonaga, M., & Yagi, A. (2008) . The effects of linear perspective on relative size discrimination in chimpanzees (Pan troglodytes) and humans (Homo sapiens) . Behavioural Processes, 77, 306-312.<br>④ Imura, T., Yamaguchi, M.K., Kanazawa, S., Shirai, N., Otsuka, Y., Tomonaga, M., & Yagi, A. (2008) . Infants' sensitivity to shading and line junctions. Vision Research, 48, 1420-1426.<br>⑤ Imura, T., Shirai, N., Tomonaga, M., Yamaguchi, M. K., & Yagi, A. (2008) . Asymmetry on the perception of motion in depth by moving cast shadows. Journal of Vision, 8 (13) , 1-8.<br>⑥ Imura, T., & Tomonaga, M. (2009) . Moving shadows contribute to the corridor illusion in a chimpanzee (Pan troglodytes) . Journal of Comparative Psychology, 123, 280-286.<br>⑦ Imura, T., Adachi, I., Hattori, Y., & Tomonaga, M. (2013) . Perception of the motion trajectory of objects from moving cast shadows in infant Japanese macaques (Macaca fuscata) . Developmental Science, 16, 227-233. |
| 所属学会 | 日本赤ちゃん学会、日本基礎心理学会、日本心理学会、日本動物心理学会、日本発達心理学会、日本霊長類学会  |



氏名  
性別  
生年月日  
職名  
連絡方法  
学歴  
  
学位  
職歴  
  
研究分野  
  
主要業績

カワハラ カズヨシ

河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi

男

1969年9月8日生

講師 (1999年4月)

E-mail : kawahara@nuis.ac.jp

1993年 信州大学工学部情報工学科卒業

1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了

1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了

博士 (工学) (信州大学、1998年3月)

1998年4月～ 1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤研究員

画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用、コンピュータビジョン (ロボット)、3次元画像、ネットワークによる教育

論文

- ① 「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS APPLICATIONS」 (共著)、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium, pp.461-464
- ② 「Image Processing with Fuzzy Set Theory」 (共著)、1995年12月 Second Asian Conference On Computer Vision (ACCV'95), Vol. I, pp.494-498
- ③ 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会論文誌 D-II、Vol.J80-D-II、No.1、pp.166-174
- ④ 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97), Vol.2, pp.1013-1016
- ⑤ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications, Vol.1 pp.333-334
- ⑥ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium, pp.339-342
- ⑦ 「ファジィ理論を用いた画像の特徴抽出」 (単著)、2005年3月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号、pp.169-178

所属学会

電子情報通信学会  
情報処理学会  
医用画像学会



氏名 ナカダ トヨヒサ 中田 豊久 NAKADA Toyohisa  
 性別 男  
 生年月日 1970年11月5日生  
 職名 講師 (2008年4月)  
 連絡方法 E-mail: nakada@nuis.ac.jp  
 学歴 1993年 東京工科大学機械制御工学科卒業  
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了  
 学位 博士 (知識科学) (北陸先端科学技術大学院大学、2006年3月)  
 職歴 1993年 NECロボットエンジニアリング株式会社  
 1996年 株式会社日本総研テクノス  
 1997年 株式会社ソリトンシステムズ  
 2003年 株式会社本田技術研究所  
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携研究員

研究分野 ① コピキタスコンピューティングに関する研究  
 ② 社会的ネットワーク分析の応用研究

主要業績

論文

- ① Toyohisa Nakada, "Destination Board System Based on Photographs", Proc. of Knowledge-Based and Intelligent Information and Engineering Systems (KES2010), LNAI Vol.6279, pp.449-456, (2010)
- ② 中田豊久, "画像による行き先掲示板システム", グループウェアとネットワークサービス・ワークショップ2009, pp.75-80, Sep. 17-18, (2009)
- ③ 中田豊久, 加藤義彦, 國藤進, "友人ネットワークの状態遷移図による分析", 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用, Vol.2 No.1 pp.87-97, (2009)
- ④ 中田豊久, 金井秀明, 國藤進: 「スポットライトを用いた屋内での探し物発見支援システム」, 情報処理学会論文誌, Vol.48 No.12, pp.3962-3976(2007).
- ⑤ Toyohisa Nakada, Yoshihiko Kato, and Susumu Kunifuji: 「A Study on the Dynamics of Friendship Network Formation Using a Directed Network Model」, The 2nd International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS 2007), pp.72-79 (2007).
- ⑥ 中田豊久, 伊藤日出男, 國藤進: 「ベイジアンネットワークを用いた画像解析による同期信号の判別」, 日本知能情報ファジィ学会論文誌, Vol19 No.5, pp.488-498 (2007).
- ⑦ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「Dynamic Book Recommendation Model for Real Bookstores」, In Adjunct Proceedings of The 5th International Conference on Pervasive Computing (Pervasive 2007), pp.53-56 (2007).
- ⑧ 中田豊久, 金井秀明, 國藤進: 「実世界での利用を考慮した図書推薦モデルの提案と評価」, 情報処理学会論文誌, Vol. 48 No. 1, pp.148-162 (2007) s.
- ⑨ 中田豊久, 國藤進: 「個人ホームページからのサブグループ発見手法の提案」, 日本創造学会論文誌, Vol.9, pp.42-59 (2005).
- ⑩ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「A Support System for Finding Lost Objects using Spotlight」, 7th International Conference on Human Computer Interaction with Mobile Devices and Services (MobileHCI 2005), pp.321-322 (2005).

所属学会 情報処理学会 人工知能学会 日本創造学会

## 新潟国際情報大学研究者総覧 2013

2013年4月 発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市西区みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



**新潟国際情報大学**  
Niigata University of International and Information Studies

950-2292 新潟市西区みずき野3丁目1番1号

TEL.025-239-3111 FAX.025-239-3690

✉ somu@nuis.ac.jp  <http://www.nuis.ac.jp/>